



住民自らの行動に結びつく 水害・土砂災害ハザード・リスク 情報共有プロジェクト 取組状況

1

水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト

A: 災害情報単純化プロジェクト

～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～

B: 災害情報我がことプロジェクト

～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

C: 災害リアリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリアリティーの追求～

D: 災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～

E: 災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト

～地域コミュニティの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～

2

A:災害情報単純化プロジェクト

～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～



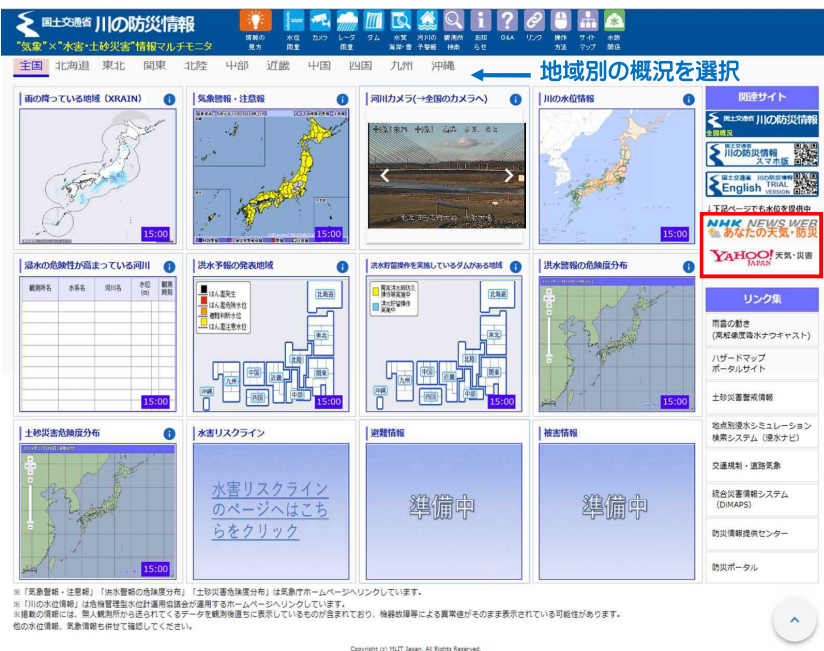
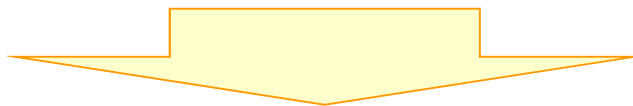
①水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成

これまで情報発信者がそれぞれ提供してきた災害情報をひとまとめで確認できるよう、気象情報、水害・土砂災害情報および災害発生情報等を一元的に集約したポータルサイトを作成する。



各リンク先

5



アクセス集中回避として
NHKとYahoo!の防災サイトをリンク

関係機関の
防災サイトへのリンク

R1年6月 3日 ポータルサイト(PC版、スマホ版)運用開始
 R1年9月11日 水害リスクラインの提供開始(50水系, 3月末からは109水系予定)
 R2年3月 避難情報・被害情報の提供開始予定

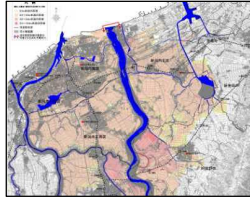
6

②DiMAPSによる災害ビッグデータを含む事前情報・被害情報の一元表示

浸水想定区域図など災害に関するデータを今後ますます充実させていくとともに、ビッグデータは処理や表示に時間がかかることから、それらのビッグデータを**DiMAPS**上でスピーディーに表示できるようシステム改良を行う。

1) 浸水想定区域図など大容量データの迅速な表示

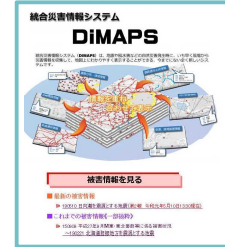
浸水想定区域図などの大容量データの表示をパソコンや携帯端末でスムーズに行うための画像タイルに変換し地図表示を迅速に行う。



浸水想定区域図

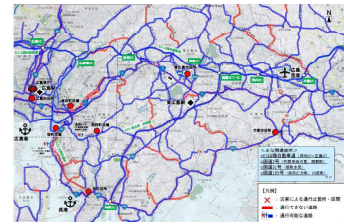
2) 携帯端末用表示対応

閲覧する端末に適切な文字サイズや配置で画面表示できるように調整



3) ETC2.0をはじめとする車両プローブ情報の活用

ETC2.0をはじめとする車両プローブ情報も活用し、緊急物資の輸送や一般利用者への通行可否情報の提供等、情報提供の強化を図り、災害対応への支援を強化する。



車両プローブ情報の活用事例
(広島市・呉市周辺通れるマップ※)
※現地調査、官民の車両プローブ情報を基に作成

7

(外部公開の閲覧性向上) スマートフォン用サイトを作成し、閲覧しやすくします。

(現状) PC用画面を携帯端末で表示

(試験用画面) 携帯端末用画面で表示

○ スマホユーザーを想定した初期表示の設定等

① 一般閲覧者のニーズを想定した初期情報の設定

スマホ版: 交通網へ影響等、高いニーズが想定される情報を中心に表示
(他の情報は選択して表示可)

PC版: 集約した災害関係情報の全体を表示(行政・専門家向け)

② ローカル情報の閲覧がしやすいよう、地図の拡大率等を調整

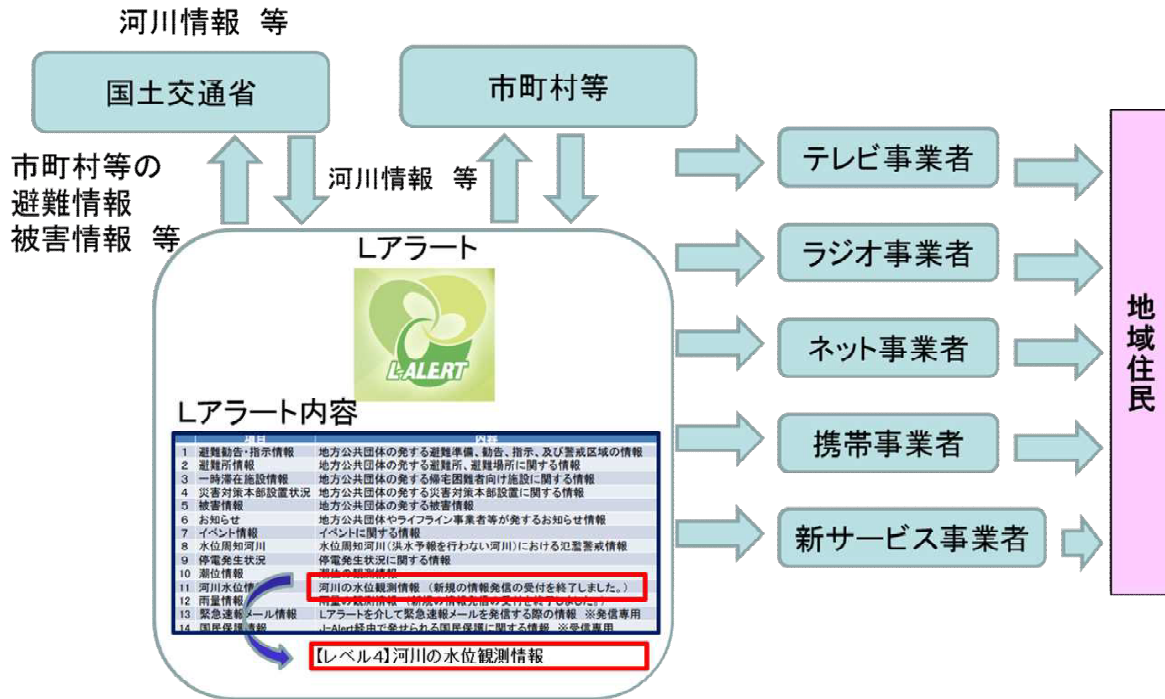


R1年 9月 大容量データの迅速な表示機能 実装
R1年12月 携帯端末用表示対応 公開予定

8

③一元的な情報伝達・共有のためのLアラートの活用

国土交通省のLアラート接続を進め、水害・土砂災害情報について、Lアラートを活用してマスメディア等に提供するとともに、自治体の避難情報との連携や、情報の重要性が一目で分かるような情報発信のタイトルに危険度レベルを付けた配信等、迅速かつ適切な情報配信が行われるような仕組みを構築する。



9

- Lアラートの水害・土砂災害情報
- 指定河川洪水予報
 - 土砂災害警戒情報
 - ダム放流情報 **New!!**
 - 水位周知情報 (国管理河川) **New!!**

Lアラート表示イメージ

The screenshot shows the 'VIEWER' interface for L-Alerts. The main heading reads '淀川水系姉川では、氾濫注意水位を下回' (In the Tone River system, the water level is below the flood warning level). Below this is a table of alerts:

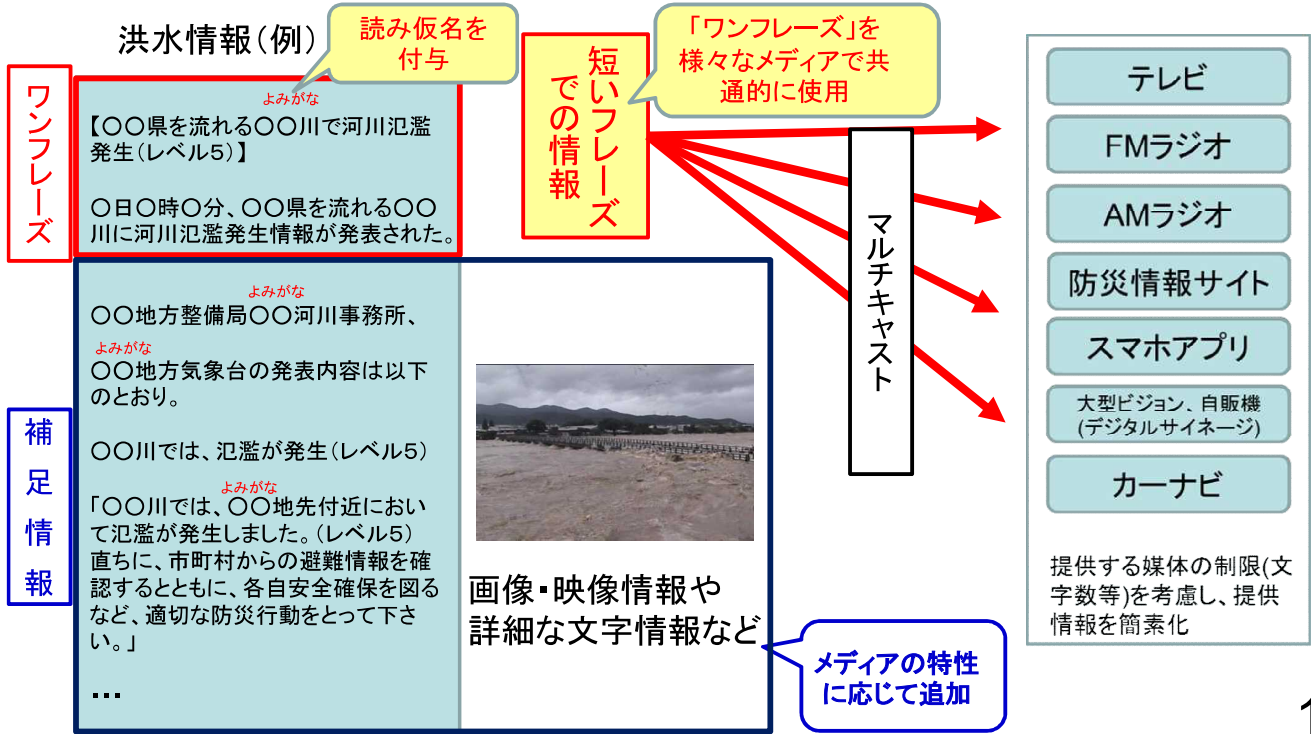
大分類	小分類	情報識別区分	モード	区分	版数	対象地域	災害名	標題
			訓練	更新	5	大分県 大分市		大分川氾濫注意情報
			訓練	更新	4	広島県 三原市		沼田川水系沼田川氾濫
			訓練	更新	2	山口県 防府市		佐波川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	愛知県 豊田市		矢作川氾濫危険情報
			訓練	更新	7	滋賀県 長浜市		淀川水系姉川氾濫注
			訓練	更新	5	熊本県 八代市		球磨川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	石川県 小松市		橋川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	石川県 金沢市		手取川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	長野県 長野市		長川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	山形県 寒室川		鮎川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	東京都他		野川・仙川氾濫危険情
			訓練	新規	1	東京都他		目黒川氾濫危険情報
			訓練	更新	2	広島県 大竹市		小瀬川氾濫注意情報
			訓練	更新	2	北海道 留萌市		留萌川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	東京都他		神田川氾濫危険情報
			訓練	新規	1	東京都他		渋谷川・古川氾濫危険
			訓練	新規	1	長野県 上田市		千曲川氾濫注意情報
			訓練	更新	2	福井県 福井市		九頭竜川氾濫注意情
			訓練	更新	3	富山県 富山市		常陸寺川氾濫注意情

H31年4月 地方整備局において、Lアラート導入
R 1年6月3日 Lアラートへ「水位周知情報」、「ダム放流情報」の提供開始

10

④「ワンフレーズ・マルチキャスト」の推進

水害・土砂災害情報について、短いフレーズで意味を伝えられるように言葉を共通化しあらゆるメディアで共通して使用する「ワンフレーズ・マルチキャスト」を推進する。また、ラジオなど音声での伝達を想定し、情報配信の際には読み仮名を付けて配信する。



11



50文字

住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト
第4回全体会議を開催します

58文字

令和元年における取組状況を振り返るとともに、今後のさらなる推進に向けた連携策をプロジェクトメンバーにより検討します。

本プロジェクトは、情報を発信する行政と情報を伝えるマスメディア、ネットメディアが、それぞれが有する特性を活かし、住民自らの行動に結びつく情報の提供・共有方法を充実させるため、6つの連携プロジェクト、33の施策を進めているものです。

1. 日時：令和元年12月20日（金） 16:00~18:00
2. 場所：半蔵門朝日ビル5階会議室（東京都千代田区平河町1丁目2-7）
3. 参加団体：別紙1のとおり
4. 取材等：

140字以内でプレスリリース

種別	水系	読み仮名	河川名	読み仮名	観測所名	読み仮名	所在地
雨量	荒川	あらかわ	荒川	あらかわ	岩淵	いわぶち	東京都5丁目
雨量	荒川	あらかわ	荒川	あらかわ	小名木川	おなぎがわ	東京都島8-
雨量	荒川	あらかわ	新河岸川	しんがしがわ	志木	しき	埼玉県町2

よみがなデータベースイメージ

H31年3月29日 各地方局へ、短いフレーズでの伝達、よみがなを付した配信の実施を通知

R 1年12月 観測所等のよみがなデータベースweb開設、よみがなリストを各メディアに配布予定

12

⑤災害情報(水害・土砂災害)用語・表現改善点検会議の実施

水害・土砂災害関連の記者発表内容や情報提供サイト等について、内容や用語が分かりやすいか、また、放送で使いやすいか等の観点から情報発信者である行政関係者と情報伝達者である気象キャスター等が連携して定期的に点検を行い、結果を踏まえて用語や表現内容の改善を図る。



R1年12月 気象キャスター等によるわかりにくい・説明しづらい表現等の意見聴取予定

13

⑥天気予報コーナー等での水害・土砂災害情報の平常時からの積極的解説

行政機関と気象キャスターとの平常時からの連携を強化し、梅雨や台風シーズン期の平時の天気予報や気象情報の放送時に、気象キャスターが水害・土砂災害時に発表される情報について解説し、どのような種類の情報がどのような順番でどのようなタイミングで出てくるのか等を視聴者に分かりやすく伝える。



R1年6月21日 気象キャスターとの意見交換会開催

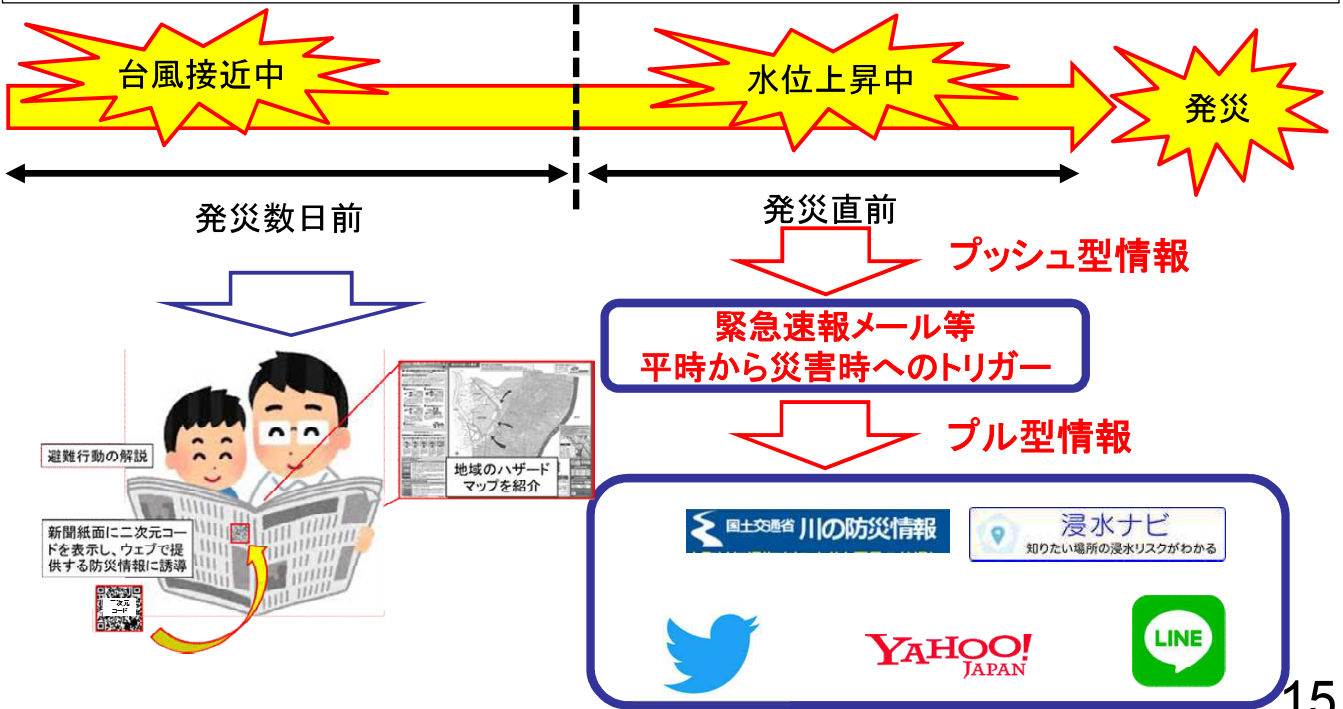
R1年9月 気象キャスターなどが利用できる解説材料(案)を作成・配布

R2年3月 解説材料を気象キャスターに配布予定

14

⑦災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供

台風接近の状況下など住民の関心が高まりつつある時点では、避難行動を解説する記事の掲載や、ハザードマップや災害情報ポータルサイトの紹介を行い、一方で、発災直前には、緊急速報メール等のトリガー情報を契機としてより詳細なプル型のネット情報に誘導して危険情報を的確に伝えるなど適時適切でシームレスな情報を提供する。



15



B:災害情報我がことプロジェクト

～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

17



18

⑧地域防災コラボチャンネルの普及促進

ケーブルテレビ事業者が有する地域密着性というメディア特性を活かして、コミュニティFM等のラジオ放送からの音声放送や国土交通省の河川監視カメラ映像とのコラボレーション放送により、より身近な地域の防災情報を住民に届け、的確な避難行動につなげる。

コミュニティFM(●●地域防災放送)

19



ケーブルワン

6月末からの大雨における配信状況



INC長野
ケーブルテレビ

台風第19号における配信状況

整備局	該当事務所	ケーブルテレビ事業者
北海道	帯広開発建設部	株式会社帯広シティーケーブル
東北	秋田河川国道事務所	秋田ケーブルテレビ株式会社
関東	京浜河川事務所	イツツ・コミュニケーションズ株式会社 YOUテレビ株式会社
	利根川上流河川事務所 渡良瀬川河川事務所 下館河川事務所	ケーブルテレビ株式会社
	千曲川河川事務所	株式会社インフォメーション・ネット ワーク・コミュニティ
北陸	高田河川国道事務所	上越ケーブルテレビジョン株式会社
	木曾川上流河川事務所 豊橋河川事務所	シーシーエヌ株式会社 株式会社キャッチネットワーク
近畿	猪名川河川事務所 淀川河川事務所	株式会社ベイ・コミュニケーションズ 株式会社ジューターテレコム (近畿整備局エリア内)
	太田川河川事務所 日野川河川事務所	株式会社ちゅぴCOMひろしま 株式会社ちゅぴCOMふれあい 株式会社中海テレビ放送
四国	野村ダム管理所、山鳥坂ダム工事事務所	西予CATV株式会社 株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸
九州	延岡河川国道事務所	株式会社ケーブルメディアワイワイ
	武雄河川事務所	株式会社ケーブルワン

地域防災コラボチャンネル
社会実験参加事業者(18社)

R1年5月21日 国交省と日本ケーブルテレビ連盟間で河川情報等の提供に関する協定締結

R1年6月～ CATVにおいて、災害時に水位、カメラ映像を放送

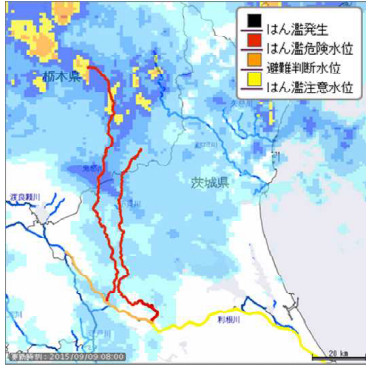
20

⑨水害リスクラインによる地先毎の危険度情報の提供

地域のリスク情報を充実させるものとして、上流から下流まで連続して洪水危険度を把握し、水位の実況値や予測値を分かりやすく表示する「水害リスクライン」により地先毎の危険度情報を提供する。

現行の洪水予報・危険度の表示

一連の区間の中で最も危険な場所にあわせて発令されているために、場所によっては、身近な地点の危険度や住民との切迫感とのずれが発生。



水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

河川の区間毎や氾濫ブロック毎といったきめ細かな洪水情報等を実施するとともに、水位情報、カメラ画像、浸水想定区域などの情報との一元化

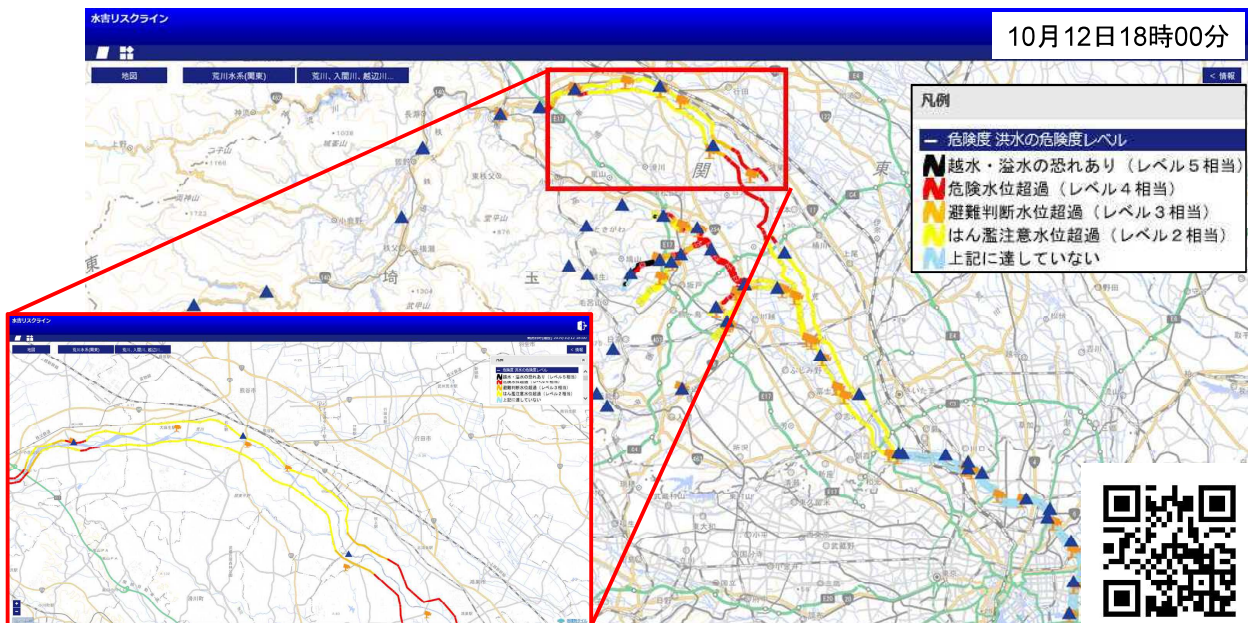


洪水予報の充実

これまでの3時間先の水位予測に加え、最高水位やその時間等の情報も提供するなど洪水予報の内容を充実

洪水の危険度、切迫性をわかりやすく提供することで、住民の避難行動が円滑化

21



水害リスクライン画面【荒川水系】

R1年6月19日 10水系において市町村等向けに提供開始

R1年9月11日 50水系に提供を拡大

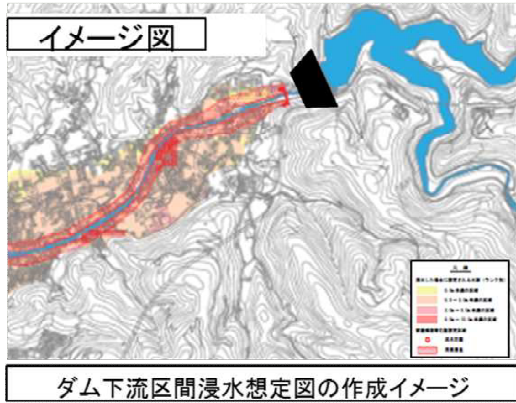
R2年3月 国が管理する全109水系で提供開始予定

22

⑩ダム下流部のリスク情報の共有

地域のリスク情報を充実させるものとして、ダム下流部において、想定最大規模降雨により当該河川が氾濫した場合の浸水想定図の作成・公表等を通じ、住民等に対して平常時からリスク情報を提供し、洪水時における住民等の円滑かつ迅速な避難の確保等を図る。

●浸水想定図の作成

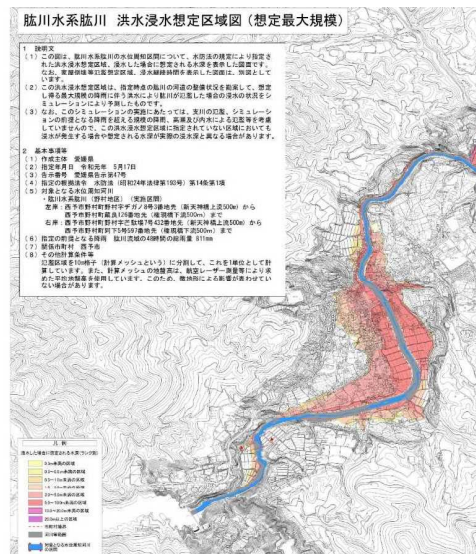
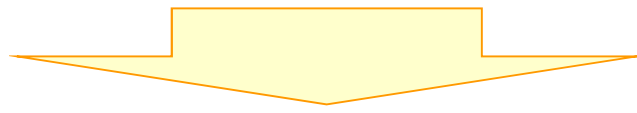


●ハザードマップの作成支援



●住民等への周知

23

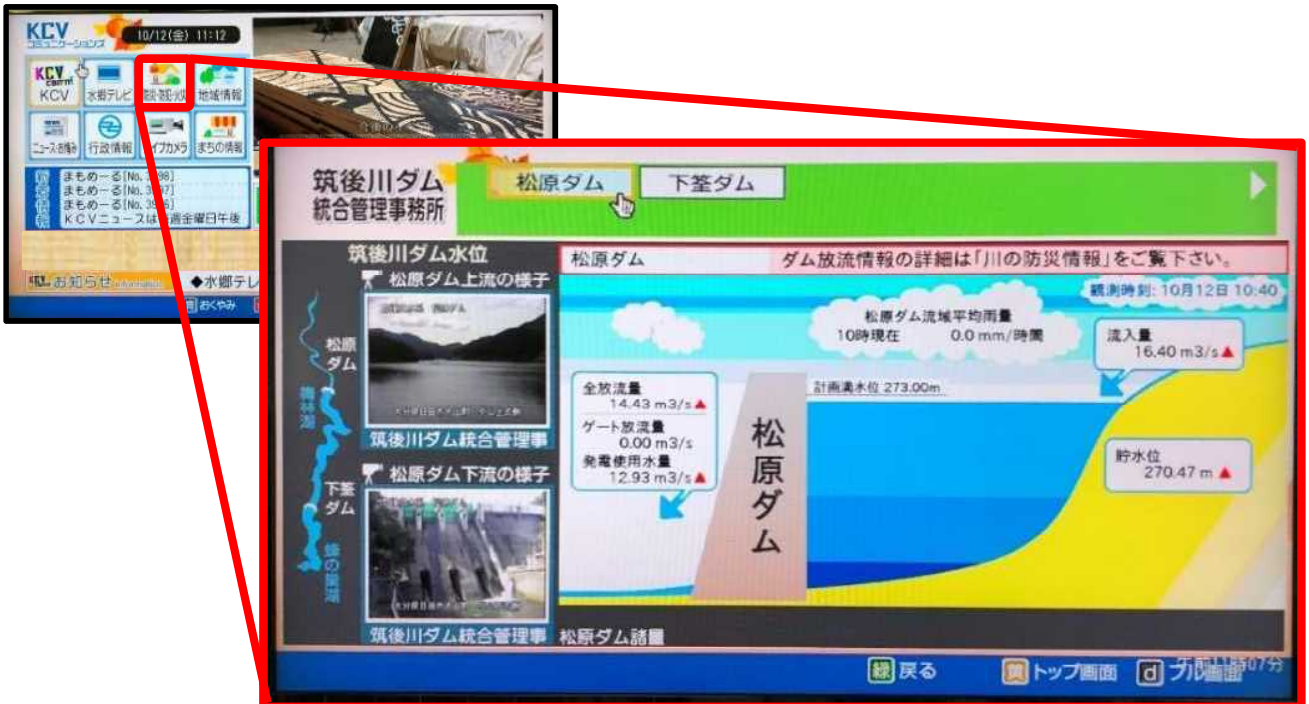


ダム下流における浸水想定図作成例
(令和元年5月 肱川水系)

- H31年3月 肱川水系で平成30年7月豪雨の実績浸水深の表示を設置(約40カ所)
- R1年 5月 肱川水系で野村・鹿野川ダム下流における浸水想定区域図を作成・公表
- R2年 3月 直轄及び水資源機構管理ダム(約100ダム)下流の浸水想定図作成・公表予定

⑪ダムの状況に関する分かりやすい情報提供

ダム放流量や貯水池への流入量等の情報に加え、貯水位の状況、ダム下流河川の状況、カメラ映像等の情報をテレビ等のメディアを通じて住民に提供する。



ケーブルテレビと連携した情報提供(九州地方整備局の例)

25



ダム状況に合わせてメッセージ変化

配信イメージ

《●時間前通知》

●●ダムでは、今後計画規模を超える洪水が予想されるため、●月●日●時より異常洪水時防災操作に移行します。自治体からの避難情報を確認してください。(今後の降雨状況により時間が前後する可能性があります。【警戒レベル●相当】)

チャンネル(番組)下部にテロップを表示



※西予CATV契約者のみ視聴可能

ホームページに放流状況等のメッセージを記載

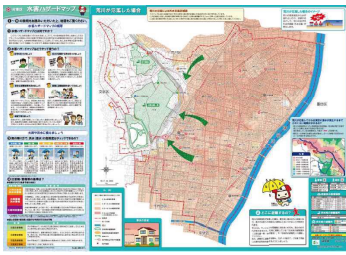
CCTV映像を地元ケーブルテレビへ配信

R1年4月22日 分かりやすいダム放流通知文の試行開始を通知
R1年6月 カメラ映像の配信(西予ケーブルテレビ(愛媛県))を開始

26

⑫天気予報コーナー等での地域における災害情報の平常時からの積極的解説

行政機関と気象キャスターとの平常時からの連携を強化し、梅雨や台風シーズン期の平時の天気予報や気象情報の放送時に、気象キャスターがその地域に根ざしたハザード情報、リスク情報、水害・土砂災害情報等、河川の特徴や観測所の見方等を解説する。



27



二つの川が合流するような場所では、上流の雨の状況などで一方の川の水位が上昇した場合、水は高いところから低いところに流れるため、合流点からもう一方の川の方に逆流するように流れます。

また、同時に水位が上昇した場合でも、川の勾配が異なるような場合には、同じような現象が起きる場合があります。

これが「バックウォーター現象」と呼ばれるものです。

令和元年8月15日
報道ランナーにおいて河川情報の
取得方法と活用方法の紹介
(関西テレビ放送)

解説材料イメージ

- R1年6月～ 地域メディア連携協議会において意見交換
- R1年9月 気象キャスターなどが利用できる解説材料(案)を作成・配布
- R2年3月 解説材料を気象キャスターに配布予定

28

⑬テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携した「マイ・タイムライン」の普及促進

「逃げ遅れゼロ」の実現のため、テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携して、一人一人の災害時の防災行動計画（「マイ・タイムライン」）の検討の手引きや策定ツールを全国で共有するとともに専門家を紹介する等により、「マイ・タイムライン」の普及拡大を図る。

○マイ・タイムラインとは？
 災害状況の変化に応じて自分自身の家族構成や生活環境に応じた“自分の逃げ方”のような防災行動を住民一人一人があらかじめ検討し、とりまとめたもの。

- 避難行動に必要な情報の例**
- 地区の特性
 - 過去の水害
 - 地形の特徴
 - 最近の雨の降り方と傾向
 - 浸水想定
 - 避難行動を判断する時に有効な情報
 - ・台風・降雨・河川・避難情報等
 - 情報を知る手段
 - ・テレビ、ラジオ、Webサイト、スマートフォン

「マイ・タイムライン」

※「マイ・タイムライン検討の手引き」より
 （鬼怒川・小貝川下流流域大規模氾濫に関する減災対策協議会）

検討の進め方

ステップ1 自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る
 ・過去の洪水を知る
 ・地形の特徴を知る
 ・水害リスクを知る

ステップ2 洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る
 ・洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
 ・タイムラインの考え方を知る
 ・洪水時の自らの行動を想定

ステップ3 マイ・タイムラインの作成
 ・一人ひとりの避難行動計画を作成

時間 国 市町村
 住民一人ひとりが自分自身の行動を記入

これで、逃げるタイミングがわかったわ！

テレビ、ラジオ、ネットメディアと連携

- ・検討の手引き
- ・作成支援ツール等を共有



取組・支援

- ・水災害について豊富な知見を有する専門家
- ・マイ・タイムラインの進め方をサポートする人材（マイ・タイムラインリーダー等）



マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」



ワークショップ講師のための研修会を開催（令和元年10月20日）

⑭マイ・ページ ～一人一人が必要とする情報の提供へ～

一人一人が必要な地域防災情報を一覧表示できる「マイ・ページ」機能を導入し、災害発生時の速やかな行動に結びつける。

一人ひとりのマイ・タイムライン(イメージ)

国	市	住民等
3日前		テレビの天気予報を注意。 ハザードマップで避難所を確認！
		非常持出袋の準備 足りない物を買出し！ 川の水位をインターネットで確認。
	洪水予報	避難準備 → おじいちゃんと一緒に 早めの避難開始！
	洪水予報	避難開始 → 避難所に避難完了
現在		

作成支援ツールも内蔵 図はイメージ

R1年12月 市町村選択機能をポータルサイトに追加予定



⑮スマホアプリ等の活用促進に向けた災害情報コンテンツの連携強化

既存のスマートフォン防災アプリやSNSを使って、利用者自らがあらかじめ災害時に必要となる情報を登録しておくことで、発災時には、利用者は直接必要な災害情報を得られる。このような機能の活用促進に向けて、行政とメディアの災害情報コンテンツにおける連携を強化する。



33

土砂災害警戒区域

都道府県砂防部局が調査・指定
国土交通省がオープンデータ化

×

土砂災害警戒判定メッシュ情報

気象庁が発表

提供

大雨警戒レベルマップ

広島県・ヤフー(株)が共同開発



C:災害リアリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリアリティーの追求～

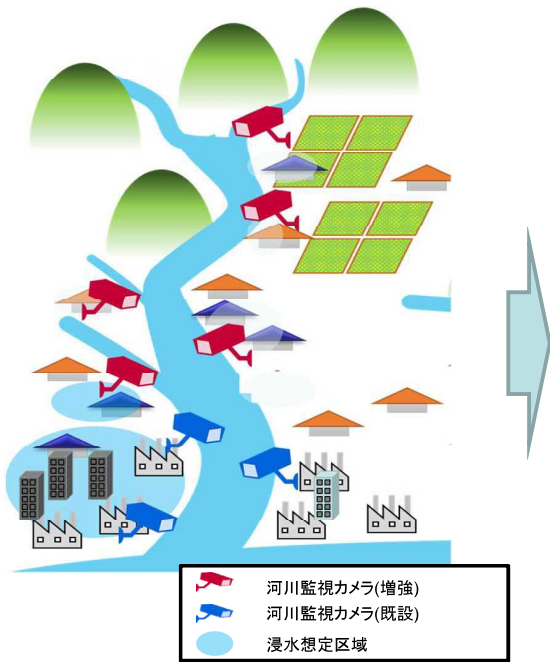
35



36

⑯河川監視カメラ画像の提供によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信

リアリティーのある気象の状況や河川の状況を住民一人一人に伝達するため、河川監視カメラを活用し、通常の文字情報に加え、画像・映像によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信を行う。



インターネットライブチャンネル等を活用した河川監視カメラ画像配信



スマートフォン、PCによる閲覧



テレビ放送(データ放送含む)

37



整備局名	対象河川	カメラ数
北海道開発局	13水系14河川 (天塩川水系天塩川他)	14
近畿地方整備局	9水系15河川 (由良川水系由良川他)	16
中国地方整備局	2水系4河川 (高梁川水系高梁川他)	4
四国地方整備局	1水系1河川 (肱川水系)	4

YouTubeによる動画配信

R1年6月17日 YouTubeによる動画配信開始(近畿地方整備局)
R1年7月～ 各地方整備局でYouTubeによる動画配信を拡充

38

⑰ETC2. 0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化

ETC2. 0やデジタルサイネージ等のICTも活用し、ドライバーや避難者、住民等に対する情報提供の強化を図り、災害時における適切な行動につなげる。

対象	情報提供内容・方法
<p>ドライバー</p>	<p>○ETC2. 0による更なる防災情報提供（一般道における拡充） ・画像情報、アンダーパス冠水情報 ○VICSによる更なる防災情報提供の検討 （走行時に注意するエリアの地図上表示）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 情報提供 イメージ </div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> ナビによる 大雨エリアの提供 </div> </div>
<p>住民 （避難者等）</p>	<p>○車両プローブ情報を活用した官民連携による通れるマップ情報の強化 ○道の駅や交通結節点における情報提供の強化 ○路上変圧器を活用したデジタルサイネージによる情報提供 など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 広島市・呉市周辺 通れるマップ </div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 道の駅「たけはら」 （広島県竹原市） </div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> デジタルサイネージ （岐阜県岐阜市） </div> </div>

H31年3月 通れるマップ情報における通行実績情報の道路種別を細分化
 H31年3月 路上変圧器を活用したデジタルサイネージ実証実験をさいたま市と岐阜市で開始
 また、R1年11月に東京都港区を追加選定



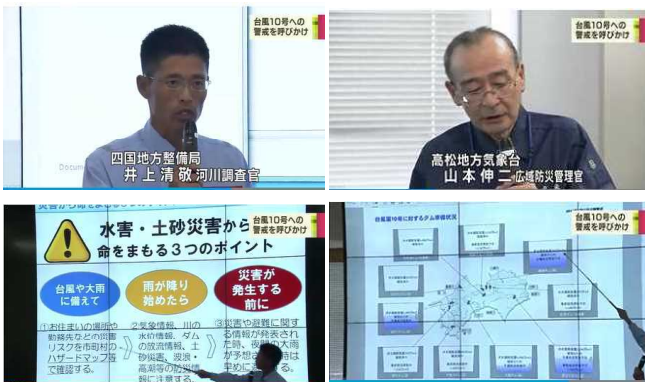
⑱水害・土砂災害情報を適切に伝えるため専門家による解説を充実

国土交通省職員など普段現場で災害対応に当たっている専門家がリアルタイムの状況をテレビやラジオなどのメディアで解説し、状況の切迫性を直接住民に伝える。



国土交通省職員による解説事例
(平成28年台風10号(平成28年8月30日 放映))

41



四国地方整備局と高松地方気象台の合同説明会
(令和元年8月13日 NHK「ニュース」より)

近畿地方整備局による電話解説
(令和元年8月15日 NHK「ニュース『台風10号』関連」(全国放送))

H31年3月29日 洪水時の解説の取組推進について地方局に通知
R1年5月 国土交通省職員などの専門家による解説を開始。
R1年10月末迄 57回実施

(整備局と気象台による合同説明会19回、電話等による専門家解説38回)

42

D:災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～

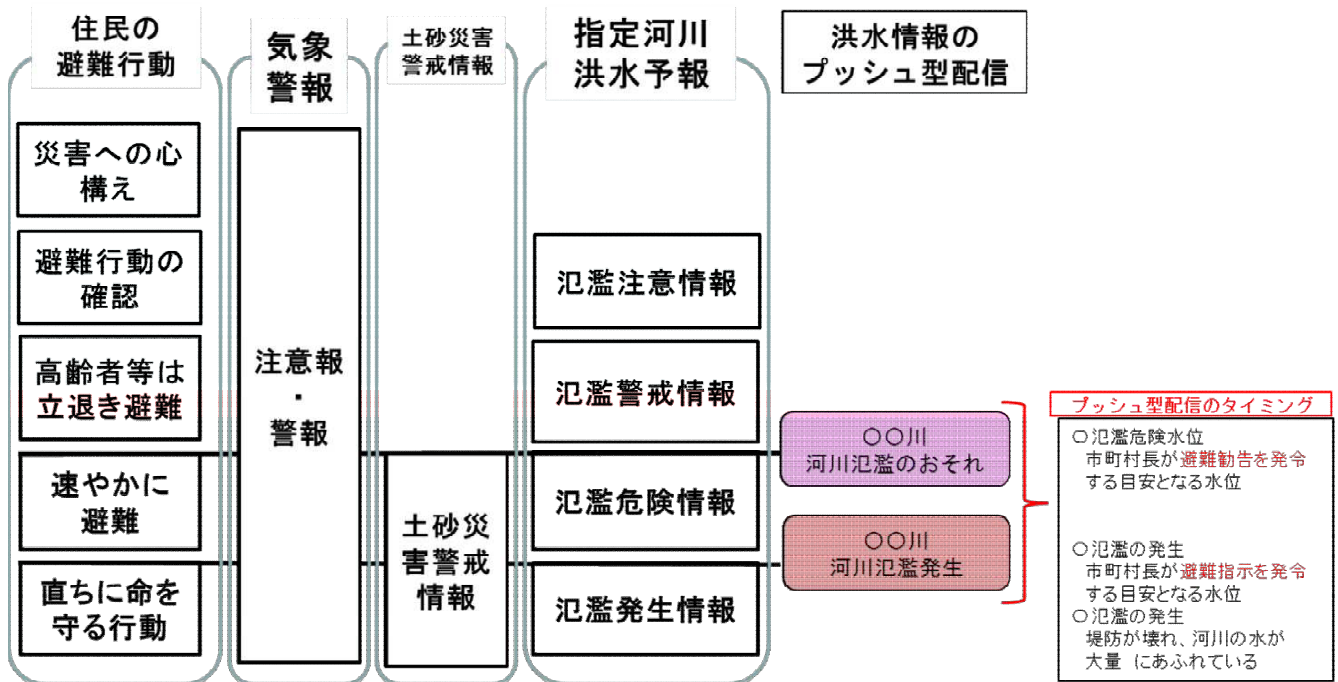
43



44

⑱住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化

関係機関との連携のもと、各種防災情報における住民自らの行動（避難準備や避難開始）のためのトリガーとなる情報を明確化し、これらのトリガー情報について適切なタイミングで発信する。



45

イメージ

ちくまがわ
千曲川氾濫危険情報

ちくまがわ
千曲川洪水予報第4号
洪水警戒報
令和元年10月12日18時00分
ちくまがわかせんじむしょ なかのちほうきょうたい
千曲川河川事務所 長野地方気象台 共同発表

(見出し) ちくまがわ
【警戒レベル4相当情報 [洪水]】千曲川では、氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれあり

(主文) ちくまがわ いた うえだし
【警戒レベル4相当】千曲川の生田水位観測所（上田市）では、12日17時40分頃に、
避難勧告等の発令の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。上田市、埴科郡坂城
町では、千曲川の堤防決壊等による氾濫により、浸水するおそれがあります。市町村か
らの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとって
下さい。

河川名・観測所名・地名等に読み仮名を付した文例

R1年5月29日 警戒レベル相当情報を付した、洪水予警報、土砂災害警戒情報の発表開始

R2年3月 洪水予報文において河川名や地名等に読み仮名を追加

46

⑩緊急速報メールの重要性の住民への周知

緊急速報メールを受信した際に適切な行動をとることができるよう、緊急速報メールは「生命に関わる緊急性の高い情報」であることをテレビやラジオ等のメディアを通じて周知する。

「生命に関わる緊急性の高い情報」を、特定のエリアの対応端末に配信するもの。

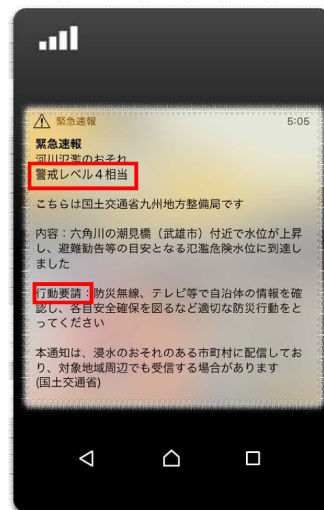
受信した場合は、防災無線、テレビ、ラジオ等を活用し、お住まいの自治体の指示に沿って落ち着いて行動してください。



47



ラジオ放送での周知
(2019,5,18; TOKYO FM)



緊急速報メールの発信状況画面(2019.8.28)
観測所:六角川水系六角川
潮見橋観測所(佐賀県武雄市)
配信市町村:佐賀県武雄市、嬉野市、
大町町、江北町、白石町

R1年6月3日 携帯キャリアにおける手引きに「警戒レベルの運用」を追加
R1年6月～ 各メディアにおいて周知を実施。引き続き、各メディアや政府広報等により周知

②1 緊急速報メールの配信文例の統一

水害・土砂災害に関する緊急速報メールについて、緊急性とその内容が的確に伝わるよう、配信文例を作成し関係者間で共有するとともに、携帯事業者が作成している「緊急速報メール配信の手引き」等に反映し、自治体にも周知する。

発信者によって配信内容や表現が統一されてなく、分かりにくい

件名: 河川氾濫のおそれ

本文:
 ○○川の○○(○○市○○)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
 本通知は、○○地方整備局より浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。

- ・文章が長く、真に必要な情報が伝わりにくい
- ・緊急性が低い情報を配信している例がある 等

・水害・土砂災害に関する情報発信についての文例を整理し、統一化・簡素化を図る

(例)

こちらは国土交通省○○地方整備局です。
 内容: 河川氾濫のおそれ

理由: ○○川の○○(○○市○○)付近で避難勧告の目安である「氾濫危険水位」に到達

対象地区: ××地区、××地区

防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

配信文の統一化・簡素化

エリアメール配信文基本構造

a.ヘッダー情報(レベル表示)	
b.発信者	
c.発令内容	1.発令情報
	2.発令時間
	3.対象地域
d.理由	1.何が
	2.誰が
e.行動要請	1.いつ
	2.誰が
	3.何を
	4.どこで
	5.どのように
f.その他	

- ・文章を簡潔・明瞭化

49

① 河川氾濫のおそれ

【見本】

(件名)
河川氾濫のおそれ

(本文)
警戒レベル4相当

こちらは国土交通省○○地方整備局です

内容: ○○川の○○(○○市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる氾濫危険水位に到達しました

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

(国土交通省)

②-i 河川氾濫発生 (河川の水が堤防を越えて流れ出ている時)

【見本】

(件名)
河川氾濫発生

(本文)
警戒レベル5相当

こちらは国土交通省○○地方整備局です

内容: ○○川の○○○○○○○○(○岸、○側)付近で河川の水が堤防を越えて流れ出しています

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

(国土交通省)

②-ii 河川氾濫発生 (堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出している時)

【見本】

(件名)
河川氾濫発生

(本文)
警戒レベル5相当

こちらは国土交通省○○地方整備局です

内容: ○○川の○○○○○○○○(○岸、○側)付近で堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出しています

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

(国土交通省)

警戒レベルを追加

簡潔・明瞭化

H31年3月20日 緊急速報メールの配信文の統一化・簡素化の通知

R1年 6月 3日 携帯キャリアにおける手引きに「警戒レベルの運用」と配信文の簡素化を追加

R1年 6月 警戒レベル情報の追加、簡潔・明瞭化した文での配信を開始

50

E:災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～

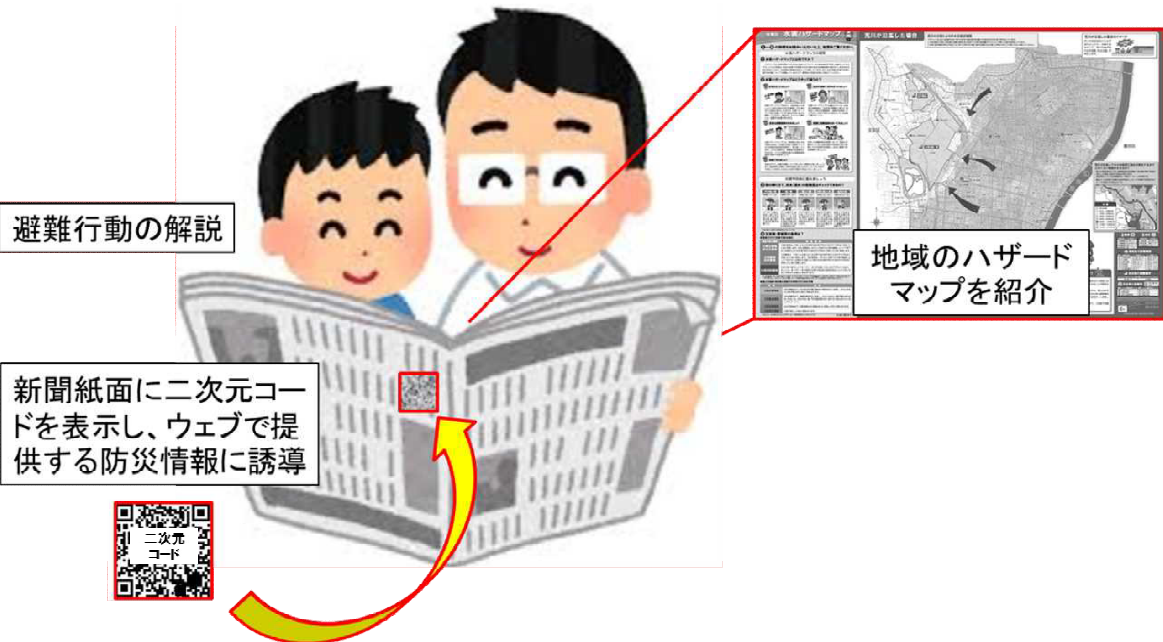
51



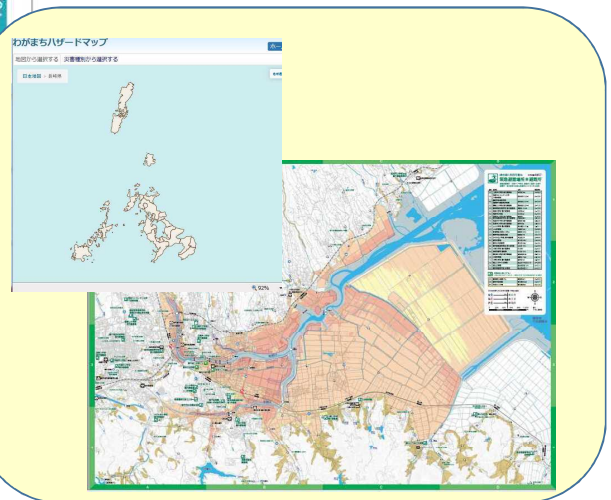
52

⑫新聞等の紙メディアとネットメディアの連携

台風接近時等のタイミングで、避難行動を解説する記事の掲載と合わせて、二次元コードを新聞紙面に表示して災害情報サイトにリンクさせるなど、紙面からネット情報に導く。



53



長崎新聞によるハザードマップの周知
(2019.9.1 朝刊 12面)

地域のハザードマップへ

R1年5月 地方新聞社連盟を通じて加盟各社に県別ハザードマップサイトの二次元コードを配布

R1年6月～ 地方メディア連携協議会において、地域別の二次元コードを配布

54

⑳テレビ等のブロードキャストメディアからネットメディアへの誘導

災害時に、災害情報サイトへリンクする二次元コードをテレビ画面等に掲載することで、住民が容易にネット上の災害情報ページにアクセスして必要な情報をシームレスに取得できる環境を構築する。



55



ハザードマップポータルサイトの周知
(NHK 2019.7.20)

R1年4月 NHK、民放連に県別ハザードマップサイトの二次元コードを配布
R1年6月～ 地方メディア連携協議会において、地域別の二次元コードを配布

56

④ 様々なメディアでの行政機関の災害情報サイトの活用

各メディアの災害報道において、行政機関の災害情報サイトを活用してもらうとともに、各メディアのホームページ等においても、災害情報サイトへのリンクを掲載してもらうなど、災害情報の相互活用を促進する。



R1年 6月 防災情報に関するリンク集を各メディアに配布
R1年11月 相互リンク先の災害情報サイトの照会

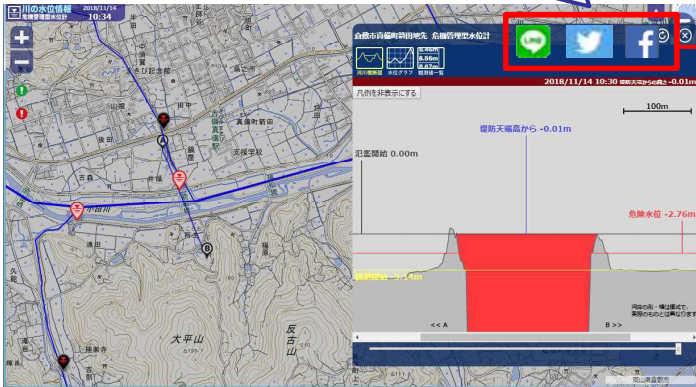
57



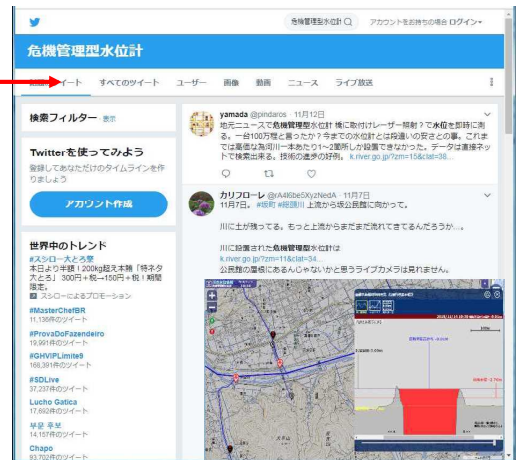
⑫災害情報のSNSへの発信力の強化

防災情報提供サイトにおいて、SNSへのリンク共有機能を追加すること等により、災害情報の拡散、共有化を図る。

LINEやTwitter、Facebook等のボタンを追加！



川の防災情報 水位観測所のページ



利用者は、自分のコメント追記して、投稿することが可能になり、正しい情報を拡散

59



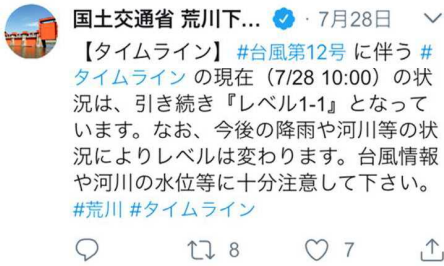
河川横断図(水位観測所地点)
水位観測所の水位グラフ
CCTVカメラ(静止画)

SNSでシェア



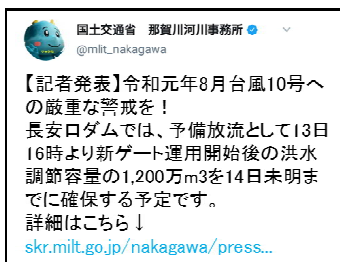
②行政機関によるSNS公式アカウントを通じた情報発信の強化

行政機関がTwitter、LINE等のSNS上の公式アカウントを積極的に活用した情報発信を行うことで、信頼性の高い災害情報を利用者にリアルタイムで提供する。また、SNSメディアとの連携により行政職員に対する研修等を実施し、より効果的な公式アカウントの運営を促進する。

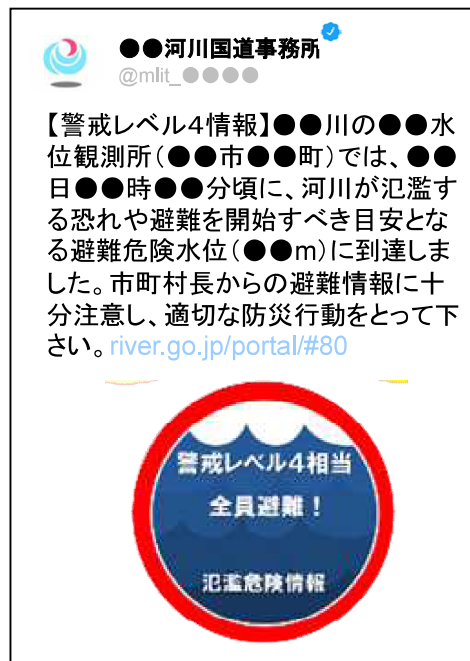
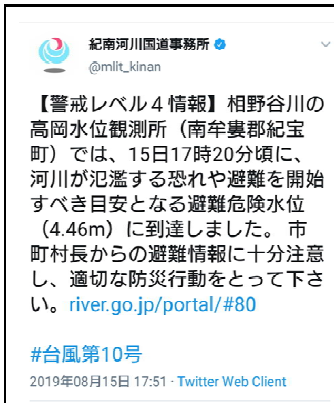


例：荒川下流河川事務所Twitterアカウント

例：九州地方整備局LINEアカウント



ダム放流(予備放流)情報の提供



河川水位に応じた注意喚起

SNSに使用する危険度を周知するアイコンイメージ

R1年 5月16日 公式アカウントを通じて災害情報の発信を強化する試行実施を地方局へ通知

R1年10月 国土交通省webサイトでSNSアカウント一覧を公開

②7 ハッシュタグの共通使用、公式アカウントのリンク掲載による情報拡散

SNSを使った情報発信に当たっては、メディア間で災害時に用いる特定のハッシュタグの共通使用や、公式アカウント上で災害情報のリンク掲載等により、災害情報の共有化と拡散を促進する。

The image shows a Twitter post from the official account of the Ministry of Land, Infrastructure, and Transport (MLIT) regarding Typhoon No. 12. The tweet text is: 【タイムライン】 #台風第12号 に伴う #タイムライン の現在 (7/28 10:00) の状況は、引き続き『レベル1-1』となっております。なお、今後の降雨や河川等の状況によりレベルは変わります。台風情報 河川の水位等に十分注意して下さい。 The tweet includes a link to a page with the hashtag #MLIT_00. A callout bubble points to this link with the text '公式アカウントを引用' (Cite official account). Another callout bubble points to the hashtag #MLIT_00 with the text 'ハッシュタグを共通使用' (Use hashtag in common). To the right, a red-bordered box contains a dashboard titled '水害・土砂災害防災情報' (Flood and Landslide Disaster Prevention Information). This dashboard features various information cards: '河川情報' (River Information), '気象情報' (Weather Information), '被害情報' (Damage Information), 'ライブ情報' (Live Information), '避難情報' (Evacuation Information), 'リスク情報' (Risk Information), '土砂災害情報' (Landslide Disaster Information), and 'ダム情報' (Dam Information). A callout bubble points to the '@MLIT_00' link in the tweet with the text '公式アカウントを引用' (Cite official account).

あらかじめ公式アカウントに災害情報のリンクを掲載することで、公式アカウントを引用された際に、災害情報が拡散されやすくなる

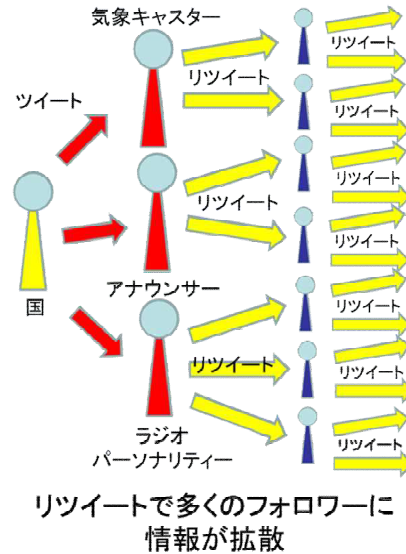
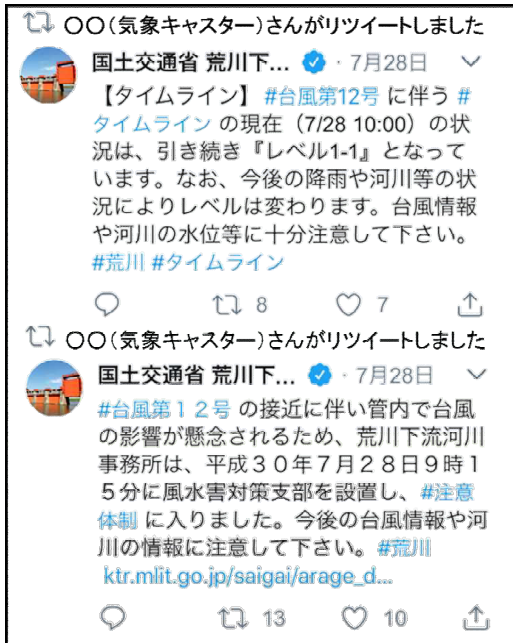
R2年3月 公式アカウントでの試行を踏まえて災害情報におけるSNS活用手引きを作成予定

63



⑳ SNS等での防災情報発信及びリツイート

気象キャスター、ラジオパーソナリティー、アナウンサー等が、公式アカウントのツイートに対して積極的なリツイートを実施することで、発信元が確かな災害情報の拡散を図る。



65



公式SNSアカウント集のwebサイト公開



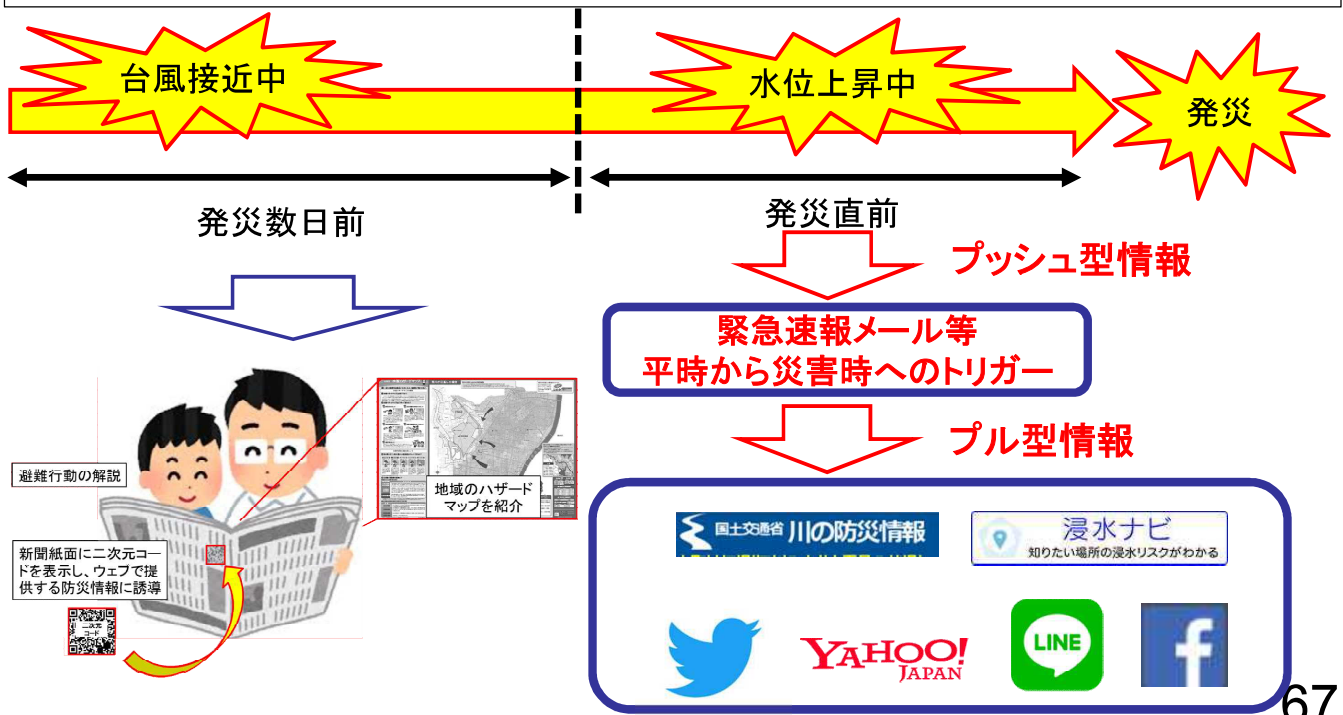
古賀涼子TOKYO FMアナウンサーによるリツイート

R1年 6月 国交省事務所SNSアカウント一覧を作成、各メディアへ配布
 R1年10月 国土交通省webサイトでSNSアカウント一覧を公開(全172アカウント)

66

⑳災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供【再掲】

台風接近の状況下など住民の関心が高まりつつある時点では、避難行動を解説する記事の掲載や、ハザードマップや災害情報ポータルサイトの紹介を行い、一方で、発災直前には、緊急速報メール等のトリガー情報を契機としてより詳細なプル型のネット情報に誘導して危険情報を的確に伝えるなど適時適切でシームレスな情報を提供する。



67

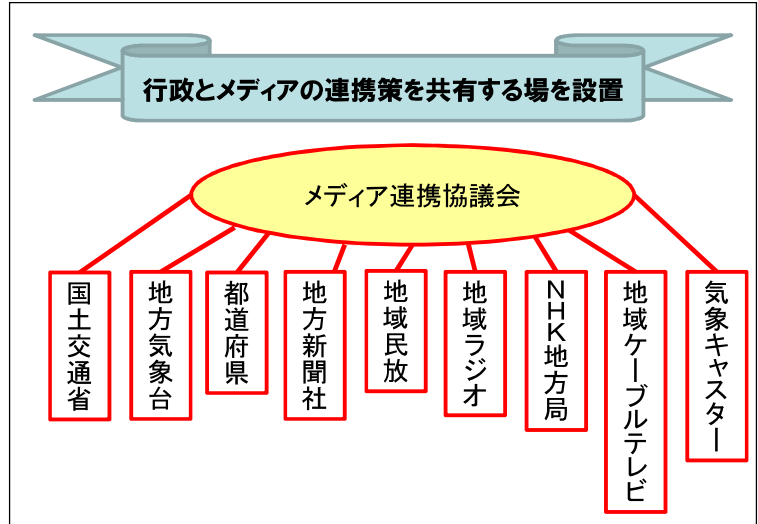


③0 地方におけるメディア連携協議会の設置

本プロジェクトのような全国的な連携とは別に、地方におけるメディア連携協議会を、例えば、地域に既に設置されている大規模氾濫減災協議会の下部組織に設置し、地方毎のメディア関係者（地方紙、地域CATV、地域ラジオ、NHK地方局、地域民放等）の参加の下、関係者の連携策と情報共有方策の具体化を検討する。また、メディアも連携した防災訓練を実施し、地域の取組を強化する。



地方でのメディア協議会において
連携策と情報共有方策を検討



(令和元年7月10日
NHK「首都圏ネットワーク」より) インタビューの状況



関東地方整備局とNHKによる中継訓練
(令和元年7月10日
NHK「首都圏ネットワーク」より)



新潟県の地域メディア連携協議会の
開催状況(令和元年7月25日)
(12月1日時点:32道府県30協議会)

- H31年3月 地方連携メディア協議会の設置を地方局へ通知
- R 1年5月 地域において各メディア等への声かけ開始
- R 1年6月～ 各地域において、地域メディア連携協議会を順次開催

③1 水害・土砂災害情報のオープンデータ化の推進

自然災害リスク情報のオープンデータ化を推進し、災害リスク情報の利活用促進を図るとともに、優良な利活用状況を取りまとめた事例集を作成し広く周知することで、災害リスク情報のメディアへの普及を図る。

災害リスク情報のオープンデータ化

洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域をはじめとする自然災害リスク情報のさらなる充実を図るとともに、これら**災害リスク情報のオープンデータ化を推進**

洪水浸水想定区域



土砂災害警戒区域



災害リスク情報の活用事例集の作成・周知

災害リスク情報の**利活用促進**のため、災害リスク情報の有効な活用事例を取りまとめた**事例集の作成・周知**



災害リスク情報を
テレビやアプリ等で活用



活用事例集のイメージ

オープンデータ化された災害リスク情報が**各種メディアやサービスで広く活用される**

71



県管理河川の洪水浸水想定区域
(想定最大規模)の公表



浸水想定区域を重ね合わせ



「危険度分布」とリスク情報の
一覧性の改善イメージ
(浸水想定区域を重ね合わせ)

R1年6月10日 県管理河川の洪水浸水想定区域(想定最大規模)(46河川)の
オープンデータを提供開始

R2年 気象庁HPの「危険度分布」とリスク情報の一覧性を改善予定

72

F:地域コミュニティー避難促進プロジェクト

～地域コミュニティーの防災力強化と情報弱者へのアプローチ～

73



74

③「避難インフルエンサー」となる人づくり

「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」※を育成・支援するとともに、災害時には、信頼性が高く切迫度が伝わる防災情報を届け、避難インフルエンサーからの周囲への積極的な情報拡散を促すことで、地域コミュニティの中での高齢者を含む情報弱者に対する支援の強化を図る。

※「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」とは、災害情報を正しく理解し、発信できる人・信頼される人で、災害時にはリーダーとなって高齢者を含む周囲の人たちに情報を拡散させることで、避難に対して大きな影響を与える人。



75

お天気キャスターとつくる
マイ・タイムライン 参加費 無料

2019
9/10 会場 小千谷市民学習センター 楽集館
(小千谷市上ノ山4-4-2)
10:00～12:00 (9:30開場)

最近の災害や気象の特徴についての話を聞いたあと、自分自身の家族構成や生活環境にあわせて、オリジナルの「マイ・タイムライン」をつくれます。

マイ・タイムラインが
あるとき
マイ・タイムラインをつくってたら...

マイ・タイムラインが
あいたとき
避難行動！？どうしよう！

知りたいたい情報の浸透リスクはご自分で！

お問合せ先
小千谷市民学習センター
〒950-0201 小千谷市上ノ山4-4-2
TEL 0258-33-3300
FAX 0258-33-3789



講習会の実施：地域防災を担う自主防災組織や町内会の役員を対象
(令和元年9月10日)

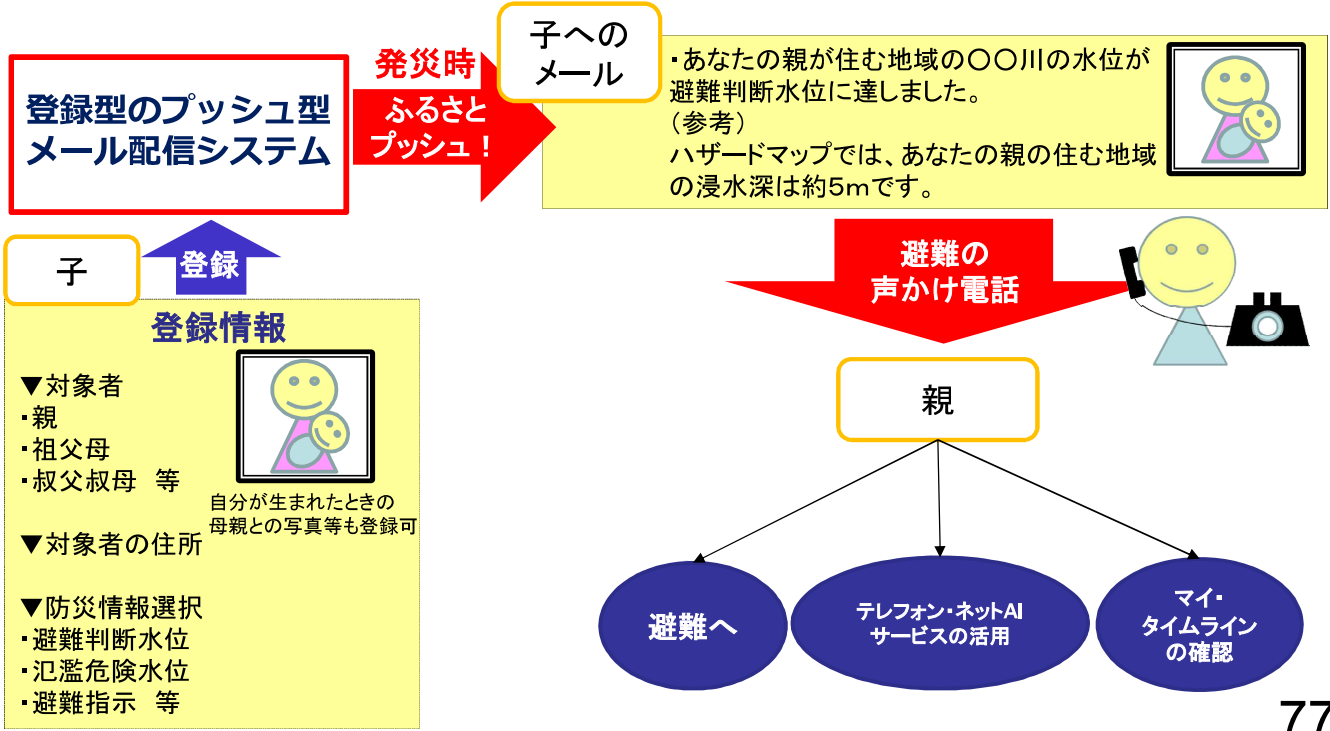
H31年2月～ モデル地区での人材育成の取組を試行

R 2年3月 試行を踏まえ、避難インフルエンサーの育成・支援に関する手引き書を作成予定

76

③登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「ふるさとプッシュ」

災害情報に関する登録型のプッシュ型メールを充実させ、一人暮らしの親等が住む地域の水位情報や浸水リスクを、離れて暮らす子供等親族に通知する「ふるさとプッシュ」を開発、提供することで、親族による避難の声かけ(人から人)を支援し、住民の避難行動を促す。



災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

逃げなきゃコール

「逃げなきゃコール」の流れ

アプリの入手
地域の登録

防災情報のプッシュ通知

大切な人に電話で連絡
逃げなきゃコール

電話を受け
避難行動へ

安全な場所へ避難

NHK、Yahoo!、KDDI、国土交通省

政府インターネットテレビ

各種アプリの入手などは

逃げなきゃコール

おばあちゃん、すぐに避難して!

わかったわ!

政府インターネットテレビ

NHK 証言記録スペシャル

いつか来る日のために

「雨季到来! いますぐ役立つ 豪雨対策」

(令和元年6月16日)

逃げなきゃコール

通知

災害のおそれ

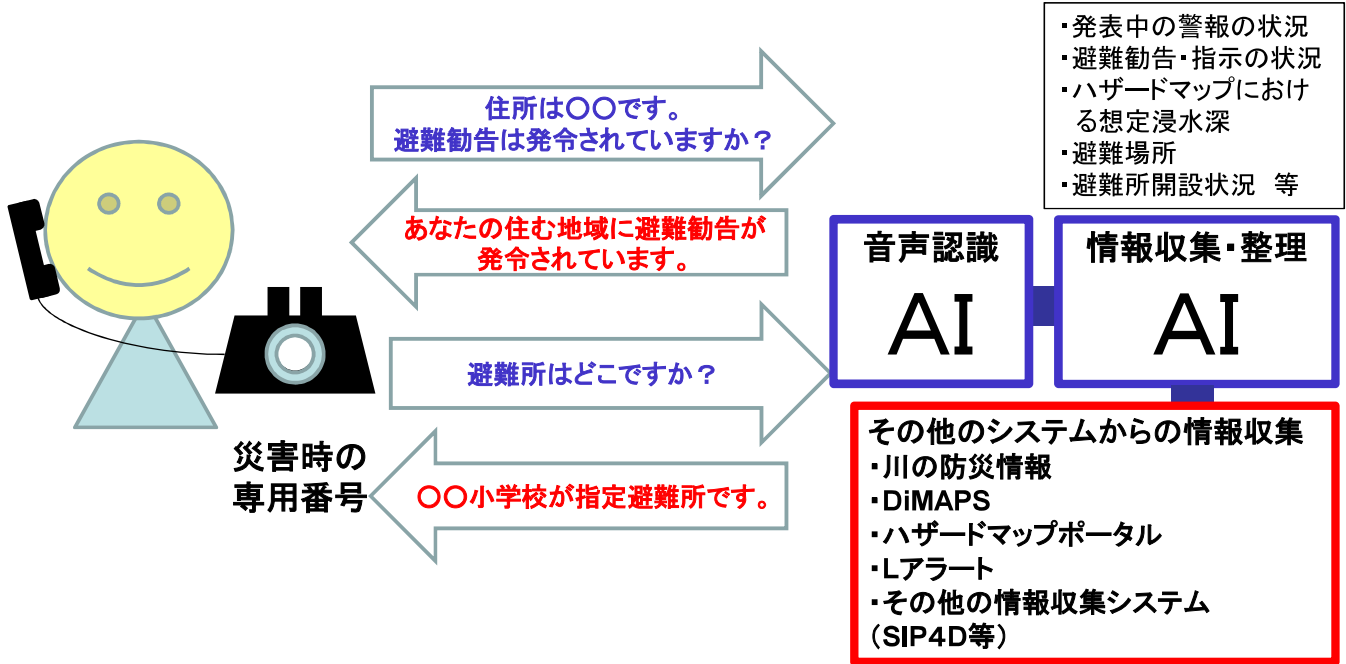
早く逃げて!

NHK 証言記録スペシャル
いつか来る日のために
「雨季到来! いますぐ役立つ 豪雨対策」
(令和元年6月16日)

R1年5月 NHK、Yahoo!、KDDI、国土交通省、「逃げなきゃコール」キャンペーン開始
R1年6月 引き続き、広報キャンペーンの継続と参画者募集予定
政府広報による周知 (R1年7月、R1年9月Yahoo!バナー広告、R1年8月政府広報ラジオ「秋元才加とJOYのWeekly Japan!!」、R1年9月政府インターネットテレビ)

③4 電話とAIを用いた災害時高齢者お助けテレフォンの開発

発表されている警報・注意報や避難勧告・避難指示等の正確な情報をAIが収集・整理するとともに、高齢者等からの問い合わせ電話にAIを用いた音声認識を活用して自動応答するテレフォン・ネットAIサービスを開発する。



79



AI音声応答機能を活用した防災情報の入手

R1年9月13日 モデル地区(伊勢市)で現場実証訓練を試行

80

③ ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化 【再掲】

ETC2.0やデジタルサイネージ等のICTも活用し、ドライバーや避難者、住民等に対する情報提供の強化を図り、災害時における適切な行動につなげる。

対象	情報提供内容・方法
ドライバー	<p>○ETC2.0による更なる防災情報提供（一般道における拡充） ・画像情報、アンダーパス冠水情報</p> <p>○OVICSによる更なる防災情報提供の検討 （走行時に注意するエリアの地図上表示）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">情報提供 イメージ</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ナビによる 大雨エリアの提供</div> </div>
住民 (避難者等)	<p>○車両プローブ情報を活用した官民連携による通れるマップ情報の強化</p> <p>○道の駅や交通結節点における情報提供の強化</p> <p>○路上変圧器を活用したデジタルサイネージによる情報提供 など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広島市・呉市周辺 通れるマップ</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">道の駅「たけはら」 (広島県竹原市)</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">デジタルサイネージ (岐阜県岐阜市)</div> </div>

H31年3月 通れるマップ情報における通行実績情報の道路種別を細分化
H31年3月 路上変圧器を活用したデジタルサイネージ実証実験をさいたま市と岐阜市で開始
また、R1年11月に東京都港区を追加選定



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

近畿地方メディア連携協議会の取組状況

令和2年2月26日
国土交通省 近畿地方整備局
河川部



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

A: 災害情報単純化プロジェクト
 ~災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求~

⑤ 災害情報(水害・土砂災害)用語・表現改善点検会議の実施

水害・土砂災害関連の記者発表内容や情報提供サイト等について、内容や用語が分かりやすいか、また、放送で使いやすいか等の観点から情報発信者である行政関係者と情報伝達者である気象キャスター等が連携して定期的に点検を行い、結果を踏まえて用語や表現内容の改善を図る。

B: 災害情報我がことプロジェクト
 ~災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現~

⑫ 天気予報コーナー等での地域における災害情報の平常時からの積極的解説

行政機関と気象キャスターとの平常時からの連携を強化し、梅雨や台風シーズン期の平時の天気予報や気象情報の放送時に、気象キャスターがその地域に根ざしたハザード情報、リスク情報、水害・土砂災害情報等、河川の特徴や観測所の見方等を解説する。



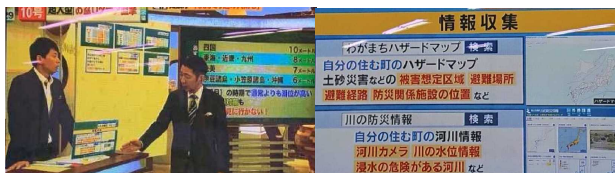
今後の予定

- 気象庁大阪管区气象台と連携し、各報道機関やNPO気象キャスターネットワーク、日本気象協会などを対象に、水害・土砂災害情報、地域の災害情報などに関する勉強会を開催。(7月予定)
- 勉強会では、特に、用語や表現内容の点検、情報の収集方法(ハザードマップ、河川水位、ダム等の施設状況)、ダム等の施設運用に関する理解について説明。
- 8月以降、気象キャスター等による解説放送が随時実施できるように体制構築・準備。(協力依頼事項)

2

- 報道番組の気象キャスターによる「川の防災情報」の紹介および活用方法などの説明。
- 報道関係者との「水害・気象情報等に関する意見交換会」、「淀川水系の河川管理施設の現地視察会」を開催。

○ 報道番組の気象キャスターによる
 河川情報サイト「川の防災情報」等の紹介



読売テレビ「情報ライブミヤネ屋」より (8月13日放送)



関西テレビ放送「報道ランナー」より (8月15日放送)

○ 報道関係者(記者、キャスター含む)との
 水害・気象情報等に関する意見交換会(共同勉強会) (R1.9.19,20)



9月19日



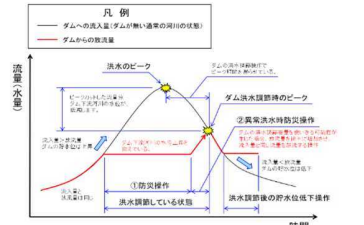
9月20日

意見交換会の開催状況

<川の防災情報の概要>



<ダム操作の概要>



○ 報道関係者(記者、キャスター含む)との淀川水系の河川管理施設を対象した現地視察会(R2.1.18)

- 西島地区スーパー堤防
- 毛馬排水機場 操作室
- さくら出会い館 展望塔
- 日吉ダム



今後の予定

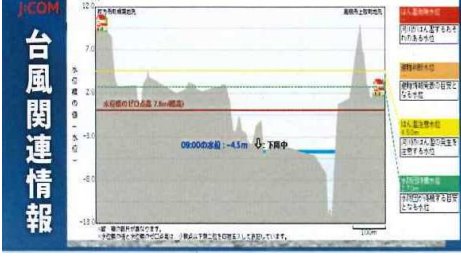
○ 令和2年度以降、行政関係者と報道関係者(記者、キャスター含む)との意見交換会(共同勉強会)について、年度初め・出水期明けに「年2回」開催予定。現地視察会も適宜開催予定。

3

⑧地域防災コラボチャンネルの普及促進

R1.6.12 第1回協議会資料

ケーブルテレビ事業者が有する地域密着性というメディア特性を活かして、コミュニティFM等のラジオ放送からの音声放送や国土交通省の河川監視カメラ映像とのコラボレーション放送により、より身近な地域の防災情報を住民に届け、的確な避難行動につなげる。



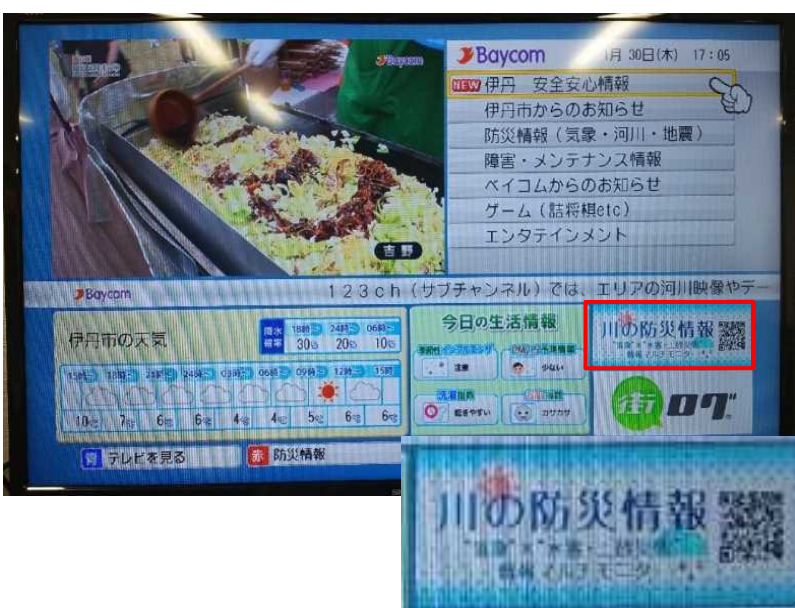
河川監視カメラ映像等を活用したテレビ放送イメージ

整備局	該当事務所	ケーブルテレビ事業者
北海道	帯広開発開発建設部	株式会社帯広シティーケーブル
東北	秋田河川国道事務所	秋田ケーブルテレビ株式会社
関東	京浜河川事務所	イッツ・コミュニケーションズ株式会社
	利根川上流河川事務所 下館河川事務所	ケーブルテレビ株式会社
北陸	千曲川河川事務所	株式会社インフォメーション・ネットワーク・コミュニティ
	高田河川国道事務所	上越ケーブルビジョン株式会社
中部	木曾川上流河川事務所	シーシーエヌ株式会社
	豊橋河川事務所	株式会社キャッチネットワーク
近畿	猪名川河川事務所 淀川河川事務所	株式会社ベイ・コミュニケーションズ 株式会社ジュビターテレコム (近畿整備局エリア内)
	中国	太田川河川事務所 日野川河川事務所
四国	野村ダム管理所 大洲河川国道事務所、 山島坂ダム工事事務所	西予CATV株式会社 株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸
九州	延岡河川国道事務所	株式会社ケーブルメディアワイワイ
	武雄河川事務所	株式会社ケーブルワン

地域防災コラボチャンネル
参加事業者

今後の予定
 ○5月21日 国交省と日本ケーブルテレビ連盟間で河川情報等の提供に関する協定締結
 ○7月より、淀川、猪名川管内のCATV(2局)において、災害時に水位、カメラ映像を放送予定。

○猪名川では、令和元年8月より二次元コード(川の防災情報)のデータ放送内表示、令和2年1月よりケーブルテレビ事業者のアプリを活用した河川監視カメラ映像のライブ配信を開始。



データ放送内の二次元コード(川の防災情報)の表示状況
 <(株)ベイ・コミュニケーションズ:猪名川河川事務所>

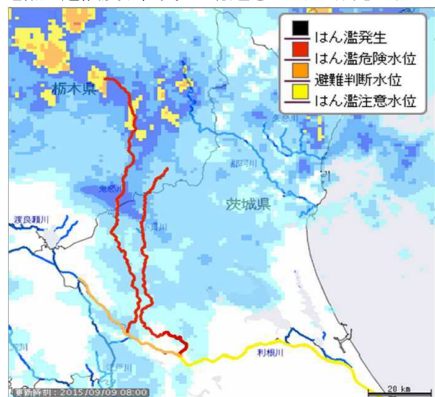
ケーブルテレビ事業者のアプリ
 <(株)ベイ・コミュニケーションズ:猪名川河川事務所>

今後の予定
 ○令和2年4月、淀川、猪名川、大和川、紀の川において、水位・カメラ映像の放送範囲を拡大予定。
 ○平時のニュース番組内においても、キャスター等による地域の防災情報に関する説明等を実施予定。

地域のリスク情報を充実させるものとして、上流から下流まで連続して洪水危険度を把握し、水位の実況値や予測値を分かりやすく表示する「水害リスクライン」により地先毎の危険度情報を提供する。

現行の洪水予報・危険度の表示

一連の区間の中で最も危険な場所にあわせて発令されているために、場所によっては、身近な地点の危険度や住民との切迫感とのずれが発生。



水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

河川の区間毎や氾濫ブロック毎といったきめ細かな洪水情報等を実施するとともに、水位情報、カメラ画像、浸水想定区域などの情報との一元化



今後の予定

○6月より、近畿では由良川水系において、自治体向けに暫定運用開始。

○8月より、由良川水系の水位の実況値について、住民向けに配信開始予定。順次、他水系も配信予定。(年度内予定)

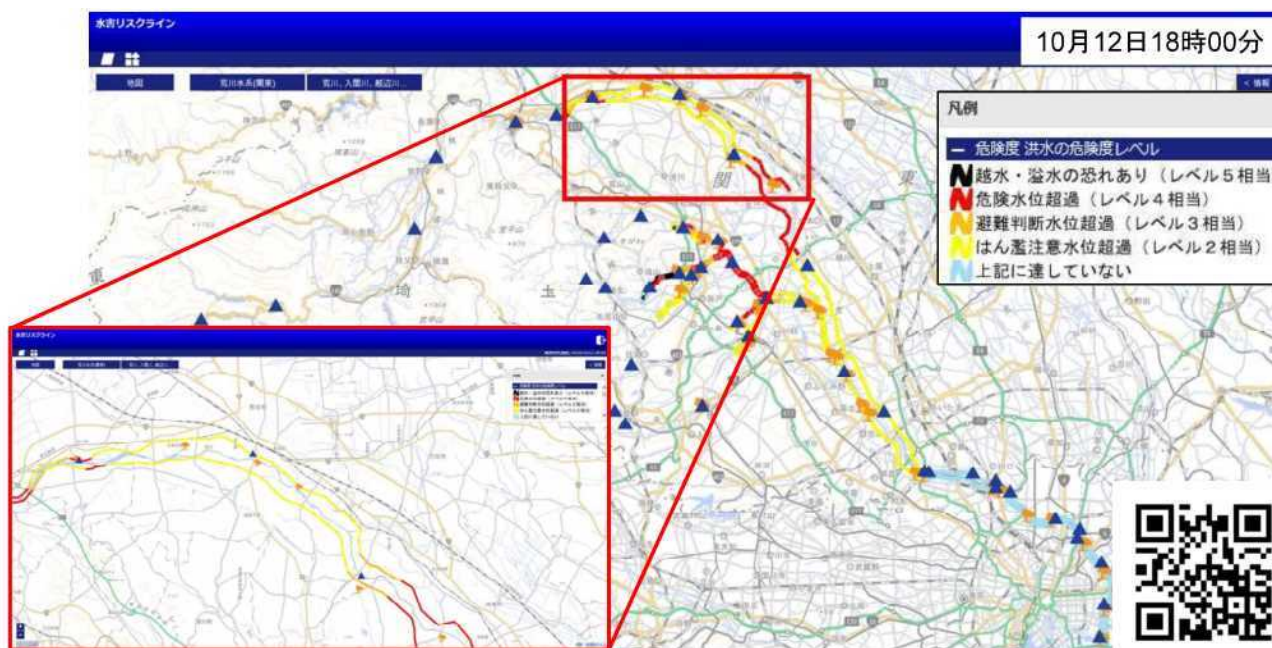
洪水予報の充実

これまでの3時間先の水位予測に加え、最高水位やその時間等の情報も提供するなど洪水予報の内容を充実

洪水の危険度、切迫性をわかりやすく提供することで、住民の避難行動が円滑化

○令和元年9月、近畿地方整備局管内の全10水系において、「水害リスクライン」による水位の実況値に基づく地先の危険度情報について、一般向けの提供開始。

(10水系:由良川、大和川、淀川、加古川、揖保川、円山川、紀の川、新宮川、九頭竜川、北川水系)



令和元年10月台風19号時の水害リスクライン表示状況(荒川水系)

今後の予定

○次年度出水期に向けて、一般向けに提供を開始した「水害リスクライン」の機能や得られる危険度情報の見方について報道関係者と連携し住民への周知を図る。

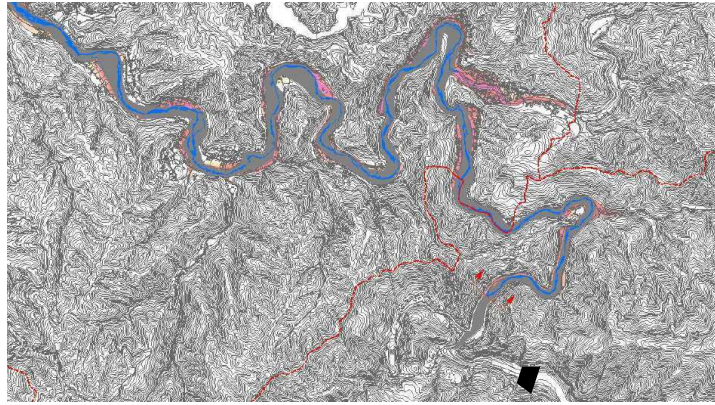
⑩⑪ダム下流部のリスク情報共有、ダム状況の情報提供

B:災害情報我がことプロジェクト
～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

R1.6.12 第1回協議会資料

⑩ダム下流部のリスク情報の共有

地域のリスク情報を充実させるものとして、ダム下流部において、想定最大規模降雨により当該河川が氾濫した場合の浸水想定図の作成・公表等を通じ、住民等に対して平常時からリスク情報を提供し、洪水時における住民等の円滑かつ迅速な避難の確保等を図る。



大滝ダム下流の浸水想定区域図

⑪ダムの状況に関する分かりやすい情報提供

ダム放流量や貯水池への流入量等の情報に加え、貯水位の状況、ダム下流河川の状況、カメラ映像等の情報をテレビ等のメディアを通じて住民に提供する。

Before (2019年06月13日 15時 47分)

項目	値
貯水位 (m)	369.03
全流入量 (m ³ /s)	501.31
全放流量 (m ³ /s)	13.21
時間雨量 (mm)	20.1
累加雨量 (mm)	45.6

After (2019年12月31日 15時 40分)

真名川ダム情報 2019年12月31日 15時 40分 放流中

貯水位: 369.03m, 全流入量: 501.31 m³/s, 全放流量: 13.21 m³/s, 時間雨量: 20.1 mm, 累加雨量: 45.6 mm

真名川ダムの情報ページ(※現在は自治体にものみ配信)

今後の予定

- ダム下流浸水想定区域図は、2ダム(天ヶ瀬、大滝)でHP公表済み。年度内に2ダム(九頭竜、真名川)について公表予定。
- 直轄ダムについて、異常洪水時防災操作に入る3時間前、1時間前、操作開始時に、当該ダムに関するNHK地方局にFAX、メールにて情報提供予定。
- 今後、ダムに関する情報を分かりやすく伝えられる情報ページを作成予定。

- ダム下流浸水想定区域図は、2ダム(九頭竜、真名川)について公表に向け準備中。
- 直轄4ダム(天ヶ瀬、九頭竜、真名川、大滝)について、ダム放流通知の提供開始に向けNHK地方局と調整中。
- 天ヶ瀬ダムでは、従来のダム放流量や貯水池への流入量等の情報に加え、貯水位の状況、ダム下流河川の状況に関する情報が分かりやすく伝えられるページを作成中。

淀川ダム統合管理事務所HP

天ヶ瀬ダム 2013/09/16 1:00

瀬田川洗堰放流量: 48.69m³/s
流入量: 957.48m³/s
常時貯水位(サーチャージ水位): 76.5m
異常洪水時防災操作開始水位: 76.0m
制限水位: 72.0m
予備放流水位: 58.0m
貯水位: 72.77m

下流水位情報 | ダム・下流カメラ情報

天ヶ瀬ダムおよび宇治川の情報

天ヶ瀬ダム状況 (2019年12月04日 14:00 現在)

貯水位: 68.71m 流入量: 22.41m³/s 放流量: 19.89m³/s

今後の予定

- 次年度出水期に向け、九頭竜ダム、真名川ダムのダム下流の浸水想定区域図を公表予定。
- 次年度出水期に向け、直轄4ダム(天ヶ瀬、九頭竜、真名川、大滝)のダム放流通知をNHK地方局に提供予定。
- 次年度出水期に向け、天ヶ瀬ダムでは新たな情報ページの運用開始予定。

リアリティーのある気象の状況や河川の状態を住民一人一人に伝達するため、河川監視カメラを活用し、通常の文字情報に加え、画像・映像によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信を行う。



水系	河川名	カメラ所在地	CCTV名称
由良川水系	由良川	京都府福知山市	猪崎
淀川水系	桂川	京都府京都市	渡月橋上流
	淀川	大阪府枚方市	淀川河川事務所2
	木津川	京都府八幡市	上津屋橋
	猪名川	大阪府池田市	小戸
	名張川	三重県名張市	名張大橋
大和川水系	野洲川	滋賀県野洲市	野洲川水位流量観測所
	大和川	奈良県大和郡山市	板東
円山川水系	大和川	大阪府堺市	遠里小野
	円山川	兵庫県豊岡市	立野大橋
加古川水系	加古川	兵庫県小野市	大島
揖保川水系	揖保川	兵庫県宍粟市	山第二
紀の川水系	紀の川	和歌山県和歌山市	湊
新宮川水系	熊野川	和歌山県新宮市	熊野大橋
九頭竜川水系	九頭竜川	福井県福井市	福井市中角付近
北川水系	北川	小浜市高塚	小浜市高塚付近

近畿地方整備局河川部youtubeによる河川監視カメラ映像配信

河川監視カメラ映像配信箇所一覧

今後の予定

- 近畿地方整備局河川部のyoutube公式アカウント「国土交通省近畿地方整備局水災害予報センター」を開設予定。
- 当初は15河川×1箇所(5秒更新)で河川監視カメラ映像を配信予定。

○令和元年6月より、近畿地方整備局河川部YouTube公式アカウントにおいて、15河川(16箇所)で河川監視カメラ映像を配信開始。



【試験配信中】近畿地方整備局 主要河川映像16カ所【Live】
1人が視聴中
国土交通省 近畿地方整備局水災害予報センター
13時更新にライブ配信開始
近畿地方整備局管内の主要河川カメラ画像を試験的に配信Live配信中です。
各河川の個別画像は、近畿地方整備局河川部ホームページ <http://u0.work/01a2> より確認できます。(ただし、YouTubeではありません)
映像は、現在の河川状況です。

【試験配信中】近畿地方整備局 主要河川映像16カ所【Live】
2人が視聴中・ライブ配信開始日: 2019/10/09
47 likes, 6 comments, 6 shares, 3 saves, 1 more options

河川監視カメラ映像配信状況
(令和元年10月台風19号時:名張川)

河川監視カメラ映像配信状況
(令和元年8月台風10号時:熊野川)

近畿地方整備局
YouTubeサイト



今後の予定

- 令和2年3月より、河川等監視カメラ映像の配信箇所数を66箇所拡大。(15河川:63箇所、1海岸:3箇所)
- これまでは1chで15河川をスクロール配信。今後は1chに対し1河川(海岸)とし16ch(河川(海岸)別ch)に拡大。

国土交通省職員など普段現場で災害対応に当たっている専門家がリアルタイムの状況をテレビや ラジオなどのメディアで解説し、状況の切迫性を直接住民に伝える。



国土交通省職員による解説事例
(平成28年台風10号(平成28年8月30日 放映))

近畿地方整備局 専門家による解説デモ状況



今後の予定

- 今年後の出水期より、国交省職員が専門家として、リアルタイムの河川状況や切迫性を直接住民に伝えるために、NHK大阪放送局と連携して、解説報道を実施。
- 直轄河川において、「避難判断水位を超過し、さらに水位上昇が見込まれる状況において実施予定」。河川の水位予測情報、CCTV画像等を用いて解説。

- 令和元年8月台風10号の洪水時において、NHK大阪放送局と連携して、河川監視用カメラ等を活用したリアルタイムの河川情報等を用いた専門家による解説を2回実施。(8月15日 14:40～,18:20～)
- 令和元年度、気象台との共同記者会見を2回実施。(台風10号、台風19号)



専門家による解説の放映状況
(令和元年8月台風10号)



気象台との共同記者会見の状況
(令和元年10月台風19号)

- 令和2年度においても、引き続き近畿地方整備局にて解説報道を実施。
- 近畿地方整備局と大阪管区気象台との共同会見について、「実施の目安」を報道関係者に情報提供。

②緊急速報メールの重要性の住民への周知

R1.6.12 第1回協議会資料

緊急速報メールを受信した際に適切な行動をとることができるよう、緊急速報メールは「生命に関わる緊急性の高い情報」であることをテレビやラジオ等のメディアを通じて周知する。



■緊急速報メールイメージ

①河川氾濫のおそれ	②-i 河川氾濫発生 (河川の水が堤防を越えて流れ出ている時)
<p>【見本】</p> <p>(件名) 河川氾濫のおそれ</p> <p>(本文) 警戒レベル4相当</p> <p>こちらは国土交通省〇〇地方整備局です</p> <p>内容:〇〇川の〇〇(〇〇市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる氾濫危険水位に到達しました</p> <p>行動要請:防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください</p> <p>本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります</p> <p>(国土交通省)</p>	<p>【見本】</p> <p>(件名) 河川氾濫発生</p> <p>(本文) 警戒レベル5相当</p> <p>こちらは国土交通省〇〇地方整備局です</p> <p>内容:〇〇川の〇〇〇〇〇〇(〇岸、〇側)付近で河川の水が堤防を越えて流れ出ています</p> <p>行動要請:防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください</p> <p>本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります</p> <p>(国土交通省)</p>

■広報誌への周知イメージ

洪水情報が緊急速報メールで発信されます！

国が管理する●●川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、その周辺にいる人に氾濫の危険をお知らせする防災気象情報が自動配信されます。

緊急速報メールが届いたら、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

洪水情報の緊急速報メール（プッシュ型配信）のイメージ

今後の予定

○6月以降、各市の広報誌への掲載や各メディアを通じた周知（協力依頼事項）

○令和元年6～10月、緊急速報メールの重要性に関する情報などについて、21市町村の広報誌において掲載。掲載市町村（大阪府寝屋川市、守口市、茨木市、島本町、松原市／兵庫県豊岡市／京都府城陽市、木津川市、和束町、福知山市／奈良県三宅町、三郷町、川西町／滋賀県湖南市、守山市、栗東市／和歌山県紀の川市、かつらぎ町／福井県永平寺町、小浜市、坂井市）



野洲川の洪水情報が緊急速報メールで発信されます！

国が管理する野洲川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、その周辺にいる人に氾濫の危険をお知らせする防災気象情報が自動配信されます。

緊急速報メールが届いたら、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

野洲川の洪水情報を緊急速報メールで発信



滋賀県湖南市広報誌(令和元年9月)

洪水情報を緊急速報メールでお知らせします！

紀の川の氾濫の危険が高まった時、その周辺にいる人に氾濫の危険をお知らせする緊急速報メールが自動配信されます。緊急速報メールが届いたら、市からの避難情報を確認するとともに、各自で安全確保を図るなど、適切な防災行動をお願いします。

パソコンや携帯から防災気象情報やリアルタイム河川情報などを調べることができます。くわしくは、水害・土砂災害情報統合ポータルサイト（<https://www.river.go.jp/portal/>）を確認ください。

【問い合わせ】危機管理消防課(TEL.77・2511 本庁3階)



和歌山県紀の川市広報誌(令和元年8月)

洪水情報が緊急速報メールで自動発信！

国が管理する紀の川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、その周辺にいる方に氾濫の危険をお知らせする防災気象情報が自動配信されます。緊急速報メールが届いたら、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自、安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

パソコンや携帯から防災気象情報やリアルタイム河川情報などを調べることができます。6月3日(月)より、「水害・土砂災害情報統合ポータルサイト」を開設しました。風水害などの有事の備えとしてお役立て下さい。

※川の防災情報などについては、次のとおり

雨量、川の水位、河川カメラ画像を確認できます。住民の方々から氾濫の危険性を知り、的確な避難行動に役立てて下さい。	身の回りではどんな災害が起こりうるのか、調べることができます。
川の防災情報	ハザードマップポータルサイト

問い合わせ 国土交通省和歌山河川国造事務所 (TEL.073-402-0267)

和歌山県かつらぎ町広報誌(令和元年8月)

今後の予定

○次年度出水期に向けて、引き続き、各市町村の広報誌への掲載や各メディアを通じた周知。

②新聞等の紙メディアとネットメディアの連携

台風接近時等のタイミングで、避難行動を解説する記事の掲載と合わせて、二次元コードを新聞紙面に表示して災害情報サイトにリンクさせるなど、紙面からネット情報に導く。

③テレビ等のブロードキャストメディアからネットメディアへの誘導

災害時に、災害情報サイトへリンクする二次元コードをテレビ画面等に掲載することで、住民が容易にネット上の災害情報ページにアクセスして必要な情報をシームレスに取得できる環境を構築する。

④様々なメディアでの行政機関の災害情報サイトの活用

各メディアの災害報道において、行政機関の災害情報サイトを活用してもらうとともに、各メディアのホームページ等においても、災害情報サイトへのリンクを掲載してもらうなど、災害情報の相互活用を促進する。

●●地区に避難準備情報が発令
左下の二次元コードで●●地区のハザードマップをチェック

地域水害
土砂災害情報

誘導

二次元コード

ハザードマップサイト

テレビ等に二次元コードを掲載し、ハザードマップなどの詳細ページへ誘導

ポータルサイト

試験運用中
2018/09/21
20:36

河川水位や河川カメラ情報

川の防災情報サイト

「川の防災情報」サイトにおいて、河川水位、レーダー雨量及びリアルタイムの川の画像等を、パソコンやスマートフォンで閲覧が可能。

目的別防災情報データベース一覧

レーダー雨量

リアルタイムの川の水位

リアルタイムの川の雨量

GPS機能により、即座に自分
がいる場所の状況表示が可能

パソコン: <http://www.river.go.jp/>
スマートフォン: <https://www.river.go.jp/app/>

今後の予定

- 「「気象×」河川「情報マルチモニタ、ハザードマップポータルサイト、河川の水位情報」等の二次元コードや防災情報に関するリンク集について、解説文と合わせて配布(6月予定)
- 配布以降、台風接近時の避難行動の解説記事、災害時のテレビ画面等に二次元コードを掲載。(協力依頼事項)

○令和元年10月、災害情報サイトにリンクする二次元コードを5新聞社において掲載。
掲載社(産経新聞、神戸新聞、奈良新聞、京都新聞、福井新聞)

○令和元年8月台風10号では、NHK大阪放送局の報道番組において「川の防災情報」HPを紹介。

超大型台風 西日本直撃
土砂災害・河川の氾濫警戒

情報収集 早め早めに避難を

情報提供されている主なQRコード

- 「気象×水害×土砂災害」情報マルチモニタ
- 気象情報や水害・土砂災害など
- 気象庁発表

防災情報提供センターサイト

河川の防災情報サイト

河川の水位、レーダー雨量およびリアルタイムの川の画像

QRコード 災害・防災情報

国土交通省は住民が災害・防災情報入手しやすくするため、スマートフォンなどで読み込める情報提供サイトにアクセスできる二次元バーコード(QRコード)を提供している。

国土交通省は「台風10号」で強い雨が降ることが予想される。早急な情報入手し、必要であれば早めの避難をしてほしい」と呼びかけている。

産経新聞(8月14日)

台風に備えて、

国土交通省

防災情報は「あなた」へのメッセージです。

大雨時に発表される防災情報は、「あなた」を守る情報です。積極的な活用と、早めの行動を!

自宅は安全な場所? わがまちハザードマップ

現在の河川情報を確認 川の防災情報

あなたのまちのハザードマップで、災害リスクや避難先を確認しましょう。

川の水位や雨量などを確認できます。川のライブ映像も配信しています。

QRコード

京都市

掲載事例(京都新聞 10/3 掲載)

6:23

新宮川水系 熊野川 右岸

台風10号 河川への影響は

国土交通省 河川カメラ 中継

国土交通省 川の防災情報

www.river.go.jp/

和歌山県新宮市船町 船町第2 碇管

NHK大阪放送局(8月15日)

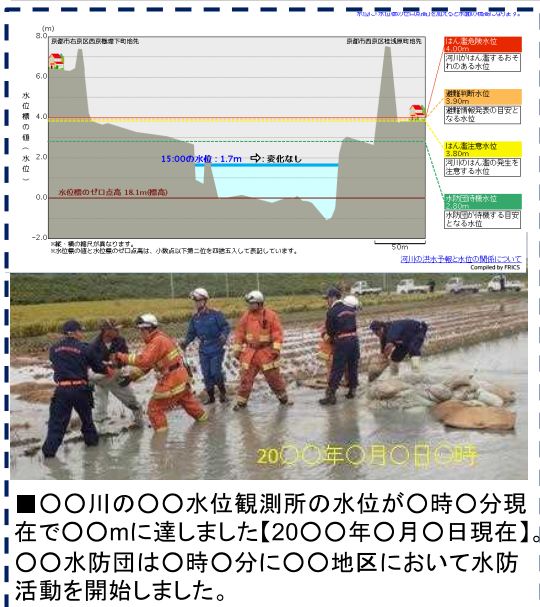
今後の予定 ○次年度出水期に向けて、引き続き、台風接近時の避難行動の解説記事、災害時のテレビ画面等に二次元コードを掲載。

②⑥ 行政機関によるSNS公式アカウントを通じた情報発信の強化

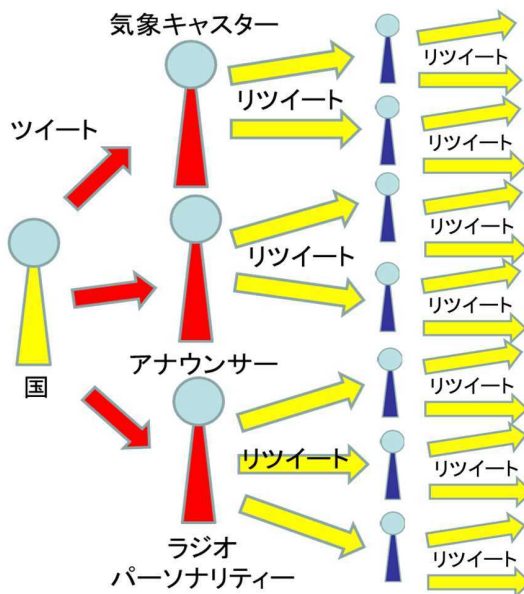
行政機関がTwitter、LINE等のSNS上の公式アカウントを積極的に活用した情報発信を行うことで、信頼性の高い災害情報を利用者にリアルタイムで提供する。また、SNSメディアとの連携により行政職員に対する研修等を実施し、より効果的な公式アカウントの運営を促進する。

②⑧ SNS等での防災情報発信及びリツイート

気象キャスター、ラジオパーソナリティー、アナウンサー等が、公式アカウントのツイートに対して積極的なリツイートを実施することで、発信元が確かな災害情報の拡散を図る。



Twitter配信イメージ例



リツイートで多くのフォロワーに情報が拡散

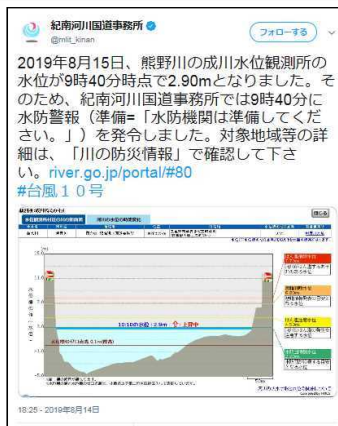
今後の予定

- 6月17日、近畿地方整備局河川部のTwitter公式アカウント「@mlit_kinki_riv」を開設予定。
- 整備局体制状況、厳しい状況となっている河川状況、ダムの放流状況、被害の発生状況、対応状況等についてツイート。
- 関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリツイートにより、信頼性の高い災害情報を利用者にリアルタイムに提供。(協力依頼事項)

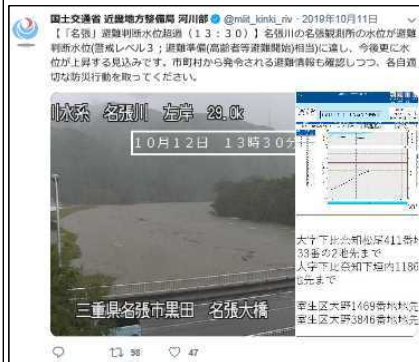
○令和元年6月より、近畿地方整備局河川部及び各事務所にて順次、公式Twitterアカウントを開設し、災害に関する注意喚起、防災情報・カメラ映像などの防災情報を発信開始。



近畿地方整備局河川部 公式Twitter
(令和元年8月台風10号)



災害に関する注意喚起
(令和元年8月台風10号)



災害に関する注意喚起
(令和元年10月台風19号)

近畿地方整備局		
近畿地方整備局	琵琶湖川事務所	大井川ダム工事事務所
福知山川国道事務所	淀川川事務所	大和川川事務所
葛城川国道事務所	和歌山川国道事務所	和歌山川国道事務所
六甲防勢事務所	紀の川ダム総合管理事務所	和歌山川国道事務所
紀南河川国道事務所	福井川国道事務所	足羽川ダム工事事務所
木津川上流川事務所	淀川ダム総合管理事務所	九段川川ダム総合管理事務所
紀伊山形川事務所		

近畿地方整備局管内 SNS一覧



今後の予定

○次年度出水期に向けて、引き続き、関係メディアによる公式アカウントのフォロワー登録および積極的なリツイートにより、信頼性の高い災害情報をリアルタイムに提供。

住民の避難行動に結びつく情報提供の充実を目指して

R1.6.12

～第1回「近畿地方メディア連携協議会」を開催しました～

～近畿地方整備局～

近畿地方整備局・大阪管区気象台・マスメディアで構成する『近畿地方メディア連携協議会』を令和元年6月12日に発足しました。第1回協議会では、昨年の7月(西日本)豪雨で発生した甚大な被害が再び繰り返されることのないよう「逃げ遅れゼロ」を目指して、国や府県・自治体が発信する防災情報等を「住民自らの命を守るための行動」に結びつけるため、どのようにすれば切迫感を伝えることができるか、住民一人一人の防災意識向上を図るための取り組みについて議論しました。

第1回近畿地方メディア連携協議会の概要

- 日 時: 令和元年6月12日(水) 15:00～17:20
- 場 所: 大阪合同庁舎第1号館(近畿地方整備局)
- 参加団体: 10社(五十音順)
(株)アドバンスコープ/大阪放送(株)/ (株)京都新聞社
(株)神戸新聞社/ (株)産業経済新聞社 大阪本社
(株)テレビ和歌山/ (株)奈良新聞社、
日本放送協会 大阪放送局/びわ湖放送(株)
(株)福井新聞社
- 議 事: ①「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」の取組 【情報共有】
② 近畿地方整備局における水害・土砂災害情報の提供・伝達等の取組 【情報共有】
③ 平成30年7月豪雨等における各団体の取組状況と課題について 【意見交換】

論点①
より分かりやすい情報提供の
あり方は？

論点②
住民に切迫性を伝えるために
何ができるか？

論点③
情報弱者に水害・土砂災害情
報を伝える方法とは？

近畿地方整備局職員による解説報道デモの様子



各団体の防災情報に関する取組状況・意見

<テレビ、ケーブルテレビ>

- ・より身近な地方のアナウンサーがいつもと違って切迫した状況で伝えることが避難に結びつくと考える。
- ・テレビの特性を活かして河川カメラの情報や一般の人が送ってくれる動画を効果的に伝えていきたい。
- ・専門家や地域の防災士に直接リアルタイムで解説してもらおうという取組を実施したい。
- ・行政、団体が実施する訓練にメディアが現場で報道連携する「メディア連携報道訓練」を実施している。
- ・心理的なことも踏まえて国民を守るための勉強会を国主催で開催してもらいたい。
- ・地域防災コラボチャンネルの促進はありがたいので今後詳しく教えてほしい。

<ラジオ>

- ・パーソナリティとリスナーの信頼関係があるため、パーソナリティが台風情報を話した方が身近に感じてもらえる。
- ・情報が多すぎて報道側としては取捨選択が大変。

<新聞>

- ・平成30年7月豪雨の時、新聞で雨の降り始めから大雨に警戒を呼びかける記事を掲載したが、なかなか伝わらなかったため、「大雨時には水路に近づかない」などの注意の徹底をわかりやすく呼びかける記事の充実が課題。
- ・極めて低い避難率に対して、住民にどのように情報のアプローチをかけるかが課題。
- ・二次元コードを情報提供してニュースサイトに戻ってくるのか。メディアとしては自社のサイトに戻ってきてほしい。
- ・情報過多になり、どの情報が一番必要なのかわかりにくい。
- ・7月豪雨の時に緊急記者会見の案内をFaxで通知されたが、デジタルだけでなく紙媒体にすることでより切迫感が伝わり、重要だとわかることもある。



河川調査官



協議会の様子

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター
〒540-8586 大阪府中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

住民へ「切迫感」のある情報を伝えるために

R1.9.19
9.20

～第1回「近畿地方メディア連携協議会 意見交換会(共同勉強会)」を開催しました～
-近畿地方整備局-

- 近畿地方整備局・大阪管区气象台・各メディア報道関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、『近畿地方メディア連携協議会意見交換会(共同勉強会)』を令和元年9月19日及び9月20日に開催し、計29名の報道関係者(記者、キャスター含む)にご参加していただきました。
- 【災害情報の「充実」から「抽出」へシフトチェンジ】をねらい、個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール開発について意見交換し、水害情報に関する基礎情報や気象情報の活用等を紹介しました。

第1回近畿地方メディア連携協議会意見交換会(共同勉強会)の概要

- 日時: 令和元年9月19日(木) 10:00～12:00
- 場所: 大阪合同庁舎第4号館(大阪管区气象台)
- 参加団体: 10社(五十音順)

ABCウェザーセンター／朝日放送テレビ(株)／大阪放送(株)
大阪放送(株)／関西テレビ放送(株)／(株)テレビ和歌山
奈良テレビ放送(株)／(株)日本経済新聞社／日本放送協会
大阪放送局／日本放送協会 奈良放送局／(株)毎日放送
(記者、キャスター含む) 計19名

- 議 事: ①河川情報等について 【情報共有】 ②気象情報等について 【情報共有】
③個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール「マイ・水害情報(仮称)」の作成に向けて【意見交換】
④共同会見について 【意見交換】

- 日時: 令和元年9月20日(金) 10:00～12:00
- 場所: 大阪合同庁舎第1号館(近畿地方整備局)
- 参加団体: 8社(五十音順)

(株)朝日新聞社／関西テレビ放送(株)／(株)産業経済
新聞社大阪本社／(株)奈良新聞社／日本放送協会
大阪放送局／びわ湖放送(株)／読売新聞大阪本社
讀賣テレビ放送(株) 計10名
(記者、キャスター含む)

個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール「マイ・水害情報(仮称)」についての意見

- このようなワンストップの情報ツールがあると、講演等で「一般の方にサイトを見てください」と言いやすくなる。
- 完成した際は報道各社向けに横並びでキャンペーンを張ればよい。
- 一般向けとプロ向けを作ってもらえるとありがたい。
- プロ向けには入力した箇所で過去にどのような災害が起こったか調べられるとよい。
- 高齢者の方は、スマホによるネット情報よりも、テレビや新聞から情報入手している高齢者が多い。
- 複数の地域登録ができるようにし、遠方の家族へ情報を伝えられるようにしてほしい。
- LINEで知り合いに共有できる機能を付けてみてはどうか。
- ラジオでもお知らせしたい。
- 高齢者向けにガラケーにも対応できるとよい。
- 情報を絞って音声でも聞けるようにしてほしい。
- どこが氾濫したかリアルタイムの情報があつた方がよい。
- 避難所の位置と避難所までの情報があつた方がよい。
- ツールのデータを元にどう判断したらよいか、わかるようにしてほしい。
- パソコンでも使うことを想定するとスマホでは使い勝手が悪くなる。
- 既にある情報ツールで出していない整備局らしい情報を出すべき。
- 報道関係者には、使いやすいツール。
- 関係ないと思っている人に使ってもらう方法が課題。
- 中小河川や内水氾濫等にも使えたらよりよい。

意見交換会(共同勉強会)の様子



共同会見についての意見

- 共同会見の実施タイミングの基準をあらかじめ共有してもらえると、切迫感が理解できる。
- 異常洪水時防災操作の可能性や水位予測の感触などを教えてもらえると切迫感が分かり、住民への伝え方も変わる。
- 新聞からすると発行時間の関係もあり、今回の共同会見のタイミングでは遅い。
- 過去の被害等具体事例を教えてください。
- 河川管理者が感じているリスクを精度が低くてもよいので教えてもらえるとありがたい。

近畿地方整備局と大阪管区气象台による共同会見(8月15日実施)



【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター
〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

第1回「近畿地方メディア連携協議会 意見交換会(共同勉強会)」説明資料

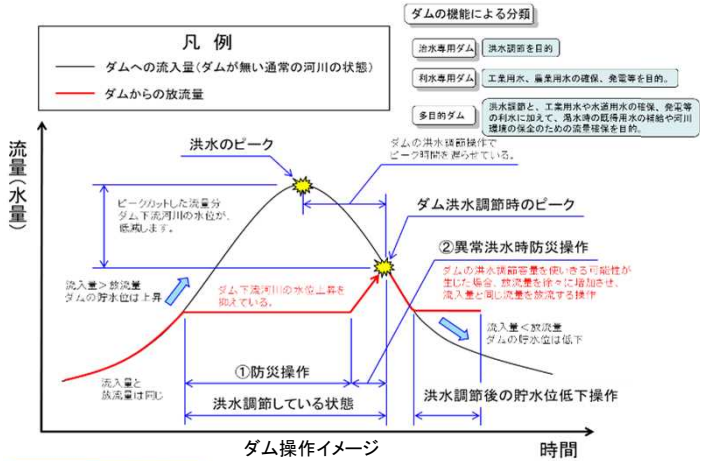
●マイ・水害情報(仮称) ※試行版：水害に関する情報のみ

災害情報の「充実」から「抽出」へのシフトチェンジを観点に住民自らが必要な情報を取得できるツールの開発(試行版：水害に関する情報のみ)に向け意見交換を実施。



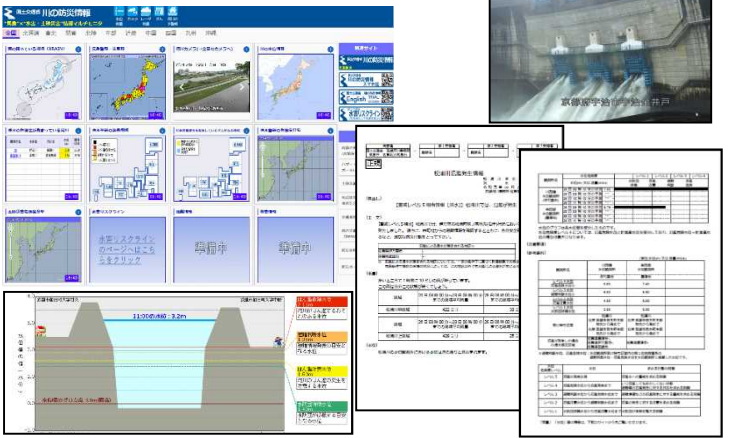
●ダム

ダムの異常洪水時防災操作等について説明。



●川の防災情報

『川の防災情報』で扱われる防災気象情報や河川に関する用語等について紹介。



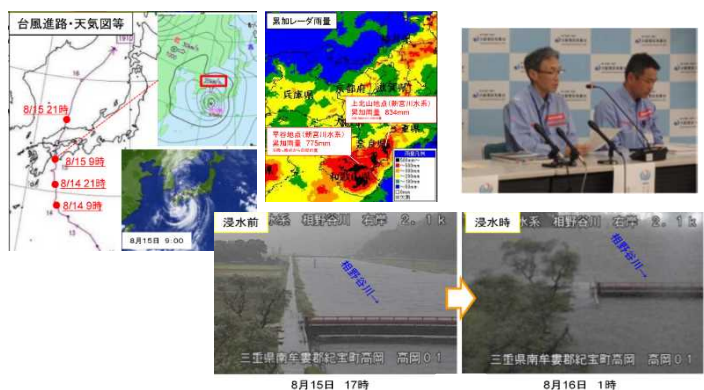
●マイ・タイムライン

自分のいのちは自分で守る。身の回りの川の氾濫に対するリスクを知ってもらうためのツールを紹介。



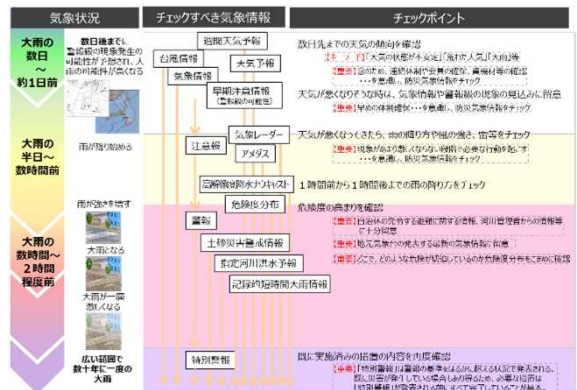
●第10号台風

台風第10号に伴う大雨による近畿管内の災害情報(出水速報)及び、気象台との共同会見について報告。



●気象情報

近年の気象災害と防災気象情報改善の経緯や段階的に発表する防災気象情報について説明。



意見交換会説明資料 ⇒ https://www.kkr.mlit.go.jp/river/iinkaikatsudou/mediacooperation/kinki-media_cooperation_meeting_firstdiscussion.html

令和元年台風第10号出水速報 ⇒ https://www.kkr.mlit.go.jp/news/river/disaster/R1_typhoon10.html



住民へ「切迫感」のある情報を伝えるために

R2.1.18

～近畿地方メディア連携協議会『現場視察会』を開催しました～

～近畿地方整備局～

- 近畿地方整備局・大阪管区気象台・各メディア報道関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、『現場視察会』を令和2年1月18日に開催しました。
- 普段は目にする機会の少ない様々な河川管理施設を視察していただくとともに、淀川水系の変遷や治水システム、これまでの治水対策や防災に関する取組などについてご説明しました。

近畿地方メディア連携協議会現場視察会の概要

- 日時: 令和2年1月18日(土) 9:00～17:00
- 参加団体: 7社(五十音順)
朝日新聞社/ABCウェザーセンター/日本放送協会
大阪放送局, 天津放送局, 奈良放送局/関西テレビ
放送(株)/ (株)毎日放送 (記者、キャスター含む)等
計17名
- 視察場所: 西島地区スーパー堤防、毛馬排水機場
さくらであい館、嵐山地区、日吉ダム

日吉ダム

■説明概要

- 日吉ダムの歴史と経緯、施設概要と操作方法等を説明。
- 平成30年7月豪雨では、異常洪水時防災操作を実施。嵐山地区では、これまでの河川整備と日吉ダムの洪水調節により、約1.5mの水位低減効果があったと推測。

■メディア関係者の感想

- ダムの事前放流などにも気象予測が使われるので、気象予測の精度向上が重要と感じた。



西島地区スーパー堤防

■説明概要

- スーパー堤防は、まちづくりと一体的に整備しており、通常の堤防と比較して幅が広いこと、越水による堤防決壊を防ぐことができる堤防。
- 盛土に合わせて地盤改良を行っているため、地震にも強い堤防であり、災害時の避難所として活用可能。

■メディア関係者の感想

- スーパー堤防の災害に強い機能、まちづくりと一体的に進めるために事業期間が長期に渡ることの理解。



毛馬排水機場

■説明概要

- 毛馬排水機場は、高潮や洪水から大都市圏を守る治水上、重要なインフラ施設の一つ。日本一の排水能力を有しており洪水時には大阪市街地を守っている。
- 過去最高潮位を記録した平成30年台風第21号の襲来時には、大阪府三大水門、陸閘閉鎖と合わせて排水機場の稼働によって、高潮による大阪市街地の浸水被害を回避。
- 毛馬閘門の役割や仕組み、砂利採取業者等の船の日常的な活用状況。

■メディア関係者の感想

- 大がかりな施設で治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の人たちがその都度最善の対策を取り、治水と向き合っていたことが勉強になった。



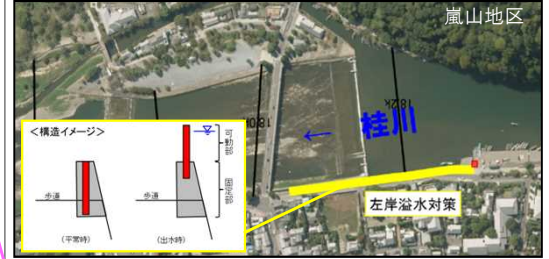
嵐山地区

■説明概要

- 桂川の嵐山地区は、頻りに浸水被害が発生しており、早期の治水対策が求められている。
- 地元等の合意形成が諮られ、景観に配慮した可動式止水壁等の治水対策が決定。
- 嵐山地区改修の進捗に伴い、上流亀岡地区の改修が促進。

■メディア関係者の感想

- 景勝地の治水対策における景観配慮や地元合意等の重要性を認識した。



さくらであい館

■説明概要

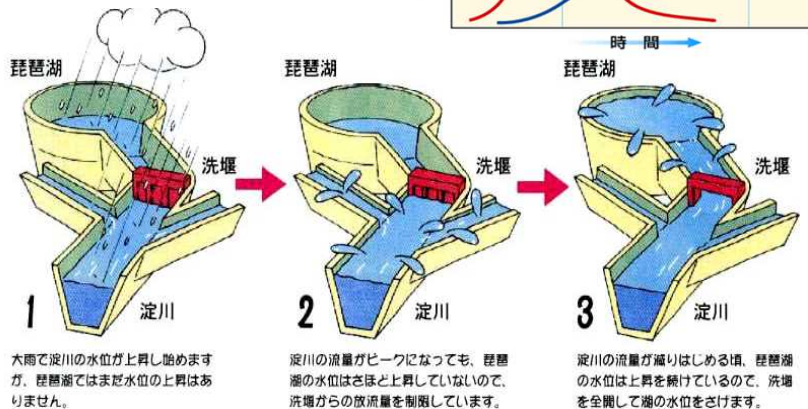
- さくらであい館は、桂川、宇治川、木津川が合流した三川合流部地域の自然・歴史資産を保全しつつ、地域を活性化することを目的として整備(平成29年3月)。
- さくらであい館の展望塔では、桂川の堤防引堤、木津川の影響が及ばないために背割堤整備の改修経緯、三川合流部・巨椋池の地形変遷等。



車中説明

説明概要

琵琶湖水位と淀川流量の洪水ピーク時差を活用した淀川水系の治水システム



○令和元年第台風19号等における近畿地整TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊) JETT(気象庁防災対応支援チーム)の活動紹介



参加者の感想

【視察箇所や施設に関する感想】

- 実際にスーパー堤防の現場を見て、現場がどうい場所、溢れたり、場合によっては切れたりといったことを想像することで、規模感がどういものか、住んでいる人からしたらどうい感じで日々堤防の高さを見ているのかとリアルに感じることができ、今後の情報の伝え方に活かしていければと思う。
- 堤防の脇で川を見て暮らしている人は洪水を考えることはあると思うが、川から離れて暮らしている人は淀川の支川でどうい影響があるのか、それが流域全体の中でどうい位置づけになっているのかなどを真剣に考えないといけないと感じた。
- 毛馬排水機場には大がかりな施設があり、治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の周辺の人たちが、その都度最善の対策を取りながら、治水と向き合っていたことが勉強になった。
- これだけ大がかりな設備があつてコントロールしている中でそれを上回る災害が発生しているということを考えると、やはり本当に大雨が発生しているということを、我々も伝える上で危機感を視聴者と共有しないといけないと感じた。
- 特に嵐山の治水が進まないと亀岡地区の堤防を直せないというのが印象深かつた。また、嵐山が景観地区ということで景観を考えずに工事はできないということも考えさせられた。
- ダム of 事前放流や水門の開閉操作などにも気象予測が使われているので、気象予測の精度をもっと上げていかないといけないと思った。

【淀川水系の変遷や治水システムに関する感想】

- 昔の考え方で作つた堤防から、今の堤防の形にどんどん変わっているということが勉強になった。
- 淀川も昔はばらばらに流れていたが、掘削など改修を進めてきた結果であること、自然と思っていたものが人工的だつたということに驚いた。
- 現場や動画を見せて戴いたことで、災害時の緊迫した状況を具体的にイメージすることができた。
- 川が一つのシステムとしてコントロールされていることを改めて実感することができた。
- 水系を一体として管理していることが非常によく分かつたし、複雑であることも分かつた。
- 気候変動による災害の甚大化について、このシステムをどう考えていったら良いのか、私たち自身もちゃんと考えていかないといけない。

【現地視察を踏まえた今後の情報発信のあり方等に関する感想】

- 災害時は上流から下流を眺めながら、どうい報道ができるのかを考えていきたい。
- 伝え手として出水期の時期には、一人ひとりに情報の重大性などをリアルタイムに伝えていく工夫をしていきたい。
- 住民の方々へ行動を促す伝え手の立場として、この情報の意味、情報ができるに至つた過程、どうい操作をダムや河川管理者の方がされているのかそれを知つた。
- これからは、いわば伴走者として、今こうい状況だからこうい操作をしていて次にはこうい懸念があるんだと分かつた上で皆さんにこうい意味ですよと伝ええる技術者としての解説者になりたいと感じた。そのためにももっと川のことを勉強しないといけないと思った。
- 雨が川に流れ込んできて、ダムに集まって、ダムでどうい操作をして下流に流れて、人間が頑張る部分の操作や人間が堤防を造つた部分など色々対策することで被害が減つたり、被害が起きてしまつたりといったことがあるということを知らずして、この川は溢れそうと言いたくない。もっとしっかり勉強をしていきたい。
- 今年度は川の防災情報も参考にさせてもらったが、テレビでの限られた時間の中でしっかりとサイトの紹介できなかったのが、次の出水期ではどうい風に伝えられるかを考えていかないといけない。
- 今後、近畿の全部の水系を見てみたい。

毛馬排水機場(集合写真)



日吉ダム(集合写真)



【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター・河川計画課
〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)



住民の避難行動に結びつく情報提供の充実を目指して

R2.2.26

～第2回「近畿地方メディア連携協議会」を開催しました～

-近畿地方整備局-

- 「近畿地方メディア連携協議会」では、令和元年6月12日の発足以降、水害・土砂災害情報等について、テレビやラジオ、新聞等のメディアの特性を活かし、住民の理解と行動につなげるための取組を関係者と連携して実施してきました。
- 今年度の「近畿地方メディア連携協議会」の取組状況の共有や今後の方向性をとりまとめるとともに、令和2年度の出水期に向けた取組改善等について議論しました。

第2回近畿地方メディア連携協議会の概要

- 日 時: 令和2年2月26日(水) 10:00～12:00
- 場 所: 大阪合同庁舎第1号館(近畿地方整備局)
- 参加団体: 大阪放送(株)／(株)京都新聞社／(株)産業経済新聞社 大阪本社／(株)奈良新聞社／日本放送協会 大阪放送局／びわ湖放送(株)
- 議 事:
 - 情報共有
 - (1) 令和元年台風第19号を踏まえた全国の動き
 - (2) 全国のメディア連携の取組状況
 - (3) 近畿地方メディア連携協議会の取組状況 今後の取組予定
 - (4) 令和元年出水期において明らかとなった課題
 - (5) 各メディアの取組状況、今後の取組予定
 - 意見交換
 - (1) 近畿地方における取組の方向性(案)
 - (2) 令和2年度出水期に向けた情報発信の取組改善
 - 話題提供
 - (1) 近畿地方整備局と大阪管区気象台による共同会見の実施目安
 - (2) 個人にとって必要な情報を容易に取得できるツールについて
 - 今後のスケジュール



情報共有

(1) 令和元年台風第19号を踏まえた全国の動き

令和元年台風第19号の概要及び被害状況、ソフト対策における課題(特別警報解除後の河川増水等)、洪水時における情報発信状況と課題(洪水予報の一部未発表等)等について説明。

(2) 全国のメディア連携の取組状況

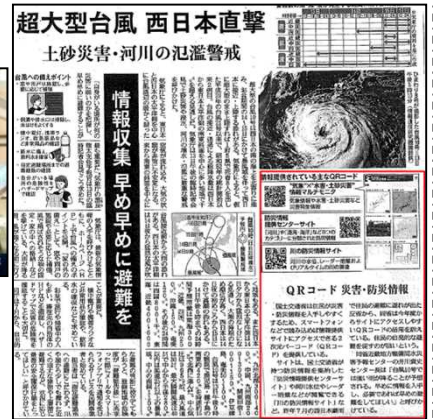
全国におけるメディア連携の取組状況について説明。
(整備局と気象台による合同説明会、国土交通省職員による専門家解説、SNS等による防災情報の発信等)

(3) 近畿地方メディア連携協議会の取組状況、今後の取組予定

今年度の近畿地方における取組状況、今後の予定について説明。

【主な取組内容等】

- 報道番組の気象キャスターによる「川の防災情報」の紹介。今後も番組等で紹介してもらえるよう、年度初め等に意見交換会(共同勉強会)を開催予定。
- 新聞において、台風時に災害情報サイトへリンクする二次元コードを掲載。引き続き、台風接近時にテレビや新聞に二次元コードを掲載する取組を予定。
- 令和元年6月より、近畿地方整備局河川部YouTube公式アカウントにおいて、15河川(16箇所、1ch)で河川監視カメラ映像を配信開始。令和2年3月より、16河川等(66箇所、16ch)に配信箇所数を拡大予定。



【取組内容に関するメディア関係者の意見】

<テレビ>

- アナウンサーやキャスターが取材し原稿にしたものを伝えるとタイムラグが生じるため、専門家に解説(電話中継の臨機な対応含む)してもらう方が遅滞なく切迫感のある情報を発信できる。
- 整備局と気象台の共同会見については、ダム管理者(水資源開発機構)との連携も視野に入れてほしい。

<ラジオ>

- ホームページに「川の防災情報」や「わがまちハザードマップ」等のバナーを貼ることで取組に貢献できると考える。

<新聞関係>

- 共同会見について、台風上陸の1日前に開催されるのであれば、今後何が起こりそうなのか、注意喚起等発信できる情報もあるため、新聞媒体にも配慮した開催タイミングとして頂きたい。
- 専門家解説をテレビ局と進めているが、緊急時は参加団体等の各媒体を対象に情報提供してほしい。

(4) 令和元年出水期において明らかとなった課題

気象台より、台風第19号関連等によって明らかとなった課題と対応策について説明。
(大雨特別警報が解除された後の河川の増水、過去事例を引用した警戒の呼びかけ、「湛水型の内水氾濫」の危険度を適切な表現等)



(5)各メディアの取組状況、今後の取組予定

【日本放送協会 大阪放送局】

- 「避難情報」をテレビ画面に自動表示
- 近畿地方整備局の専門官が電話出演
- 台風・豪雨時の「命を守る」避難呼びかけ
 - ・河川カメラを活用し、「命を守る」行動につながる呼びかけコメントを作成

【びわ湖放送 株式会社】

- 県内のネットワーク構築(強化)
- 滋賀県総合防災訓練への参加(メディア連携訓練)
 - ・現地災害報道訓練を実施(年1回)
- 情報発信ツールを稼働(AIアナウンサーシステム、L字情報)

【株式会社 奈良新聞社】

- 台風接近時などの積極的な事前報道
- 防災、防犯活動の市民団体などを紹介する連載記事掲載
- 生活面での災害情報提供などに関する連載の企画検討

【株式会社 産業経済新聞社】

- 「教訓をいかに伝えるべきか」
 - ・西日本豪雨からの再建などを報道 等
- 「生活に直結する情報をいかに届けるか」
 - ・情報サイトの二次元コードを紙面掲載 等
- 「次の災害にどう備えるか」
 - ・「想定外台風 関西の備え」をテーマに記事掲載 等

意見交換

(1)近畿地方における取組の方向性(案)

新たに推進・より地域に沿った災害情報の発信

<引き続き推進>

- ①行政関係者と報道関係者の情報・知識の共有および情報発信の充実
- ②災害情報の分かりやすく積極的な配信ツールの強化
- ③平時からの住民の避難行動に資する災害情報の周知および入手容易化の促進
- ④洪水時の切迫感あるリアルタイム情報の積極的な伝達の推進

<新たに推進>

- ①より地域に沿った災害情報発信と地域コミュニティ防災力の強化



メディアからの情報発信訓練のイメージ
 「令和2年度 大和川水系総合水防演習・奈良県防災総合訓練」では地域メディアと連携して情報発信訓練を実施予定

【取組の方向性に関するメディア関係者の意見】

- 行政はサポートすることしかできないため、住民が主体となり防災(避難)行動を起こすことができるよう導く必要がある。マイタイムラインでは、不十分と考える。
- 公的避難所と住居の位置関係や避難するタイミングによっては、公的施設に限定した避難は非効率的な場合もあり、民間施設(マンションや会社のビル等)を避難候補地とするケースも考えられる。個人で避難計画を立てることは容易ではなく、民間企業との交渉が必要な場合は、自治体単位での助け合いが必要である。
- 自治体や自治会が避難計画の作成に協力しないと、高齢者がどこに住んでいるかさえ把握できず、支援がなければ避難できない高齢者もいることから、マイタイムラインでは解決できない。
- 摂津市において自治会単位で避難計画の作成に取り組んでいる事例があるので、勉強会等の場に避難計画を作成した自治会長や指導した防災研究者を講師として招き、情報共有してはどうか。
- 普段生活している中で過去の浸水被害等身近な情報から集め、地域の自治会で最適な避難場所を話し合う場を設け、地域防災マップを作成するといった取組を展開してはどうか。
- 地域コミュニティが残っている所では避難インフルエンサーの活動に意義があると考えますが、過疎化が進む山間部では避難インフルエンサーがどのような活動、役割を担うのか課題が残る。

(2)令和2年度出水期に向けた情報発信の取組改善

【どのような情報があれば報道で使いやすいか等に対するメディア関係者からの意見】

<ラジオ>

- 大雨特別警報解除後に発生した河川氾濫事例のように、下流域の住民に対する洪水到達時間の差を考慮した注意喚起は、専門家の意見を聞きながらでないメディア単独での情報発信は困難であるため、整備局もしくは河川事務所の方に具体的に伝えてもらうことが必要である。
- 日頃から防災関連情報の解説や周知、啓発が必要と考えているので協議会・勉強会を通じて連携を図りたい。

<ラジオ>

- パーソナリティが発言すれば、我がこととして伝わることもあるため、積極的に情報発信していきたい。

<新聞関係>

- 紙面でも専門家の解説を載せることで、読者の注意を引きつけることができる。
- どの地域の危険度が高まる見込みか、台風上陸の1日前を目途に府県単位で構わないので予測の情報を提供して頂きたい。

話題提供

(1)近畿地方整備局と大阪管区気象台による共同会見の実施目安

共同会見の目的及び実施の目安について紹介。

近畿地方整備局と大阪管区気象台による共同会見の実施目安について

1. 共同会見の目的

住民生活に重大な影響を及ぼすような気象現象や、大規模な水災害・雪災害等の自然災害の発生が近畿地方において予想されるなどの場合に、近畿地方整備局と大阪管区気象台が共同で会見を実施し、被害の防止・軽減を図ることを目的としています。

2. 共同会見実施の目安

(1)ケースA(大阪管区気象台発議を想定)

- ア 過去に同地域に大規模な災害をもたらした時と同程度の大雨^{※1}が予想される場合
- イ 大雨特別警報が発表された場合
- ウ 重大な交通障害を伴う大雪が予想^{※2}される場合

注: 大型連休・冬・年末年始等では社会的影響が平時より大きくなることを考慮する
 ※1 「50年に一度の値(48時間)」の出現が予想される場合
 ※2 気象台による雪への「一層の警戒の呼びかけ」が予想される場合

(2)ケースB(近畿地方整備局発議を想定)

- ア 河川の氾濫により大規模な浸水が予想される場合
- イ 大雪による自然災害により、大規模な交通規制を実施することが予想される場合

(3)ケースC

- ア その他、両者協議の上必要と認められる場合

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター・河川計画課
 〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)

